

平成 27 年度

事業報告書

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

<本編>

| | |
|-----------------|----|
| I. 法人の概要 | 1 |
| II. 事業の概要 | 7 |
| 1. 学園全体 | 7 |
| 2. 森ノ宮医療大学 | 9 |
| 3. 森ノ宮医療学園専門学校 | 22 |
| 4. 森ノ宮医療学園附属診療所 | 27 |
| 5. 森ノ宮医療学園出版部 | 35 |
| II. 財務の概要 | 38 |

学校法人森ノ宮医療学園

大阪市東成区中本 4 丁目 1 番 8 号

本報告書は、平成 21 年 2 月 17 日付日本公認会計士協会「学校法人における事業報告書の記載例について」を参考に構成した。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

| | | |
|-------------|-----|--|
| 昭和48年(1973) | 3月 | 厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける |
| | 4月 | 大阪鍼灸専門学校開校 |
| 昭和52年(1977) | 4月 | 学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる |
| 昭和57年(1982) | 4月 | 附属診療所、附属鍼灸施術所落成 |
| 昭和60年(1985) | 4月 | 卒後教育雑誌「鍼灸 OSAKA」創刊 |
| 昭和63年(1988) | 5月 | 鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる |
| | 11月 | 中国、大連市中医医院と学術研究提携を結ぶ |
| 平成3年(1991) | 7月 | 米国、Santa Barbara College of Oriental Medicine と教育提携を結ぶ |
| 平成4年(1992) | 7月 | 中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ |
| 平成7年(1995) | 3月 | この年の卒業生から文部省告示による専門士(医療専門課程)の称号を授与 |
| 平成8年(1996) | 6月 | 中国江蘇省陰市中医医院と交流開始 |
| 平成12年(2000) | 4月 | 柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称 |
| 平成13年(2001) | 1月 | 本校舎増改築工事完成 はりきゅうミュージアム開設 |
| 平成14年(2002) | 1月 | はりきゅうミュージアムにて代田文誌特別展開催 |
| | 4月 | 緑橋校舎増設 |
| 平成15年(2003) | 3月 | 柔道整復学科第1期生卒業 創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定 |
| | 4月 | 全日制アドバンスコース開講 |
| | 7月 | アネックス校舎(第1期)完成 |
| 平成16年(2004) | 3月 | 中国江蘇省江陰市中医医院と学術・教育協定締結 |
| 平成17年(2005) | 2月 | 医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ |
| 平成19年(2007) | 4月 | 森ノ宮医療大学開学 |
| 平成20年(2008) | 2月 | 第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞 |
| | 11月 | 森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得 |
| 平成21年(2009) | 4月 | 森ノ宮医療大学 AMRI 医療センター(アムリクリニック、アムリ鍼灸院)開院 |
| 平成22年(2010) | 1月 | 森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院 |
| | 3月 | 森ノ宮医療学園アネックス校舎完成 |
| | 4月 | 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センターと包括連携協定締結 |
| | 6月 | 森ノ宮医療大学メディカフェオープン |

| | | |
|-------------|-----|---|
| 平成23年(2011) | 4月 | 森ノ宮医療大学看護学科設置 西棟(ウエストポート)竣工 森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置 |
| 平成24年(2012) | 2月 | 森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可 |
| 平成25年(2013) | 3月 | 森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別 認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の 認定 |
| 平成26年(2014) | 1月 | 大阪市住之江区と包括連携協定締結 |
| 平成26年(2014) | 6月 | 大阪府高槻市教育委員会と包括連携協定締結 |
| 平成26年(2014) | 11月 | 大阪府吹田市教育委員会と包括連携協定締結 |
| 平成27年(2015) | 2月 | 相愛大学と包括連携協定締結 |
| 平成27年(2015) | 4月 | 大阪市教育委員会と連携協定締結 |
| 平成27年(2015) | 7月 | 守口市教育委員会と連携協定締結 |
| 平成28年(2016) | 1月 | 帝塚山福祉会と相互連携協定締結 |
| 平成28年(2016) | 4月 | 森ノ宮医療大学に助産学専攻を開設 保健医療学部臨床検査学科、 作業療法学科を開設 |
| 平成28年(2016) | 5月 | 森ノ宮医療大学 新棟(チャンネルポート)竣工、新体育館、新図書館 併設 |

3. 設置する学校・学部・学科等

| 法人の 名称 | | 学校法人森ノ宮医療学園 | | 事務所の 所在地 | | 大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号 | | |
|----------------|---------------------|----------------------------------|----------|-------------|-----------|------------------------|------|-------|
| 設置 する 学校 | 学校名 | 学部・学科名等 | 修業 年限 | 入学 定員 | 編入 学定員 | 収容 定員 | 開設年度 | |
| | 森ノ宮医 療大学 | 大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻(修士課 程) | | 2 | 6 | 0 | 12 | 平成23年 |
| | | 保健医療学部鍼灸学科 | | 4 | 60 | 0 | 240 | 平成19年 |
| | | 保健医療学部理学療法学 科 | | 4 | 60 | 0 | 240 | |
| | | 保健医療学部看護学科 | | 4 | 80 | 0 | 320 | 平成23年 |
| | | 保健医療学部臨床検査学 科 | | 4 | 60 | 0 | 240 | 平成28年 |
| | | 保健医療学部作業療法学 科 | | 4 | 40 | 0 | 160 | 平成28年 |
| | | 助産学専攻科 | | 1 | 10 | 0 | 10 | 平成28年 |
| | 森ノ宮医 療学園専 門学校 | 医療専門課程 鍼灸学科 | | 3 | 210 | 0 | 630 | 昭和48年 |
| | | 医療専門課程 柔道整復 学科 | | 3 | 180 | 0 | 540 | 平成12年 |

4. 施設等の状況

| 学校名（所在地） | 校地現有面積 | 校舎現有面積 | 備考 |
|---|-----------------------------|-------------------------------------|--|
| 森ノ宮医療大学・ 大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号) | 15,995.24 m ² | 7,209.83 m ² (東校舎) | 学生食堂は平成22年6月完成。(676.67 m ²) 西(看護学棟)校舎は平成23年3月完成。 (4,566.38 m ²) なお、校舎面積 7,209.83 m ² は大学設置認可申請書の「基本計画書」の校舎面積に加えて基準外の体育館面積433.50 m ² を含む。 |
| | | 676.67 (学生食堂) | |
| | | 4,566.38 (西校舎) | |
| 森ノ宮医療大学 (大阪市東成区中本2丁目5番41号) | 1,329.40 | 198.76 (森ノ宮校舎) | (森ノ宮校舎) |
| 森ノ宮医療大学 計 | 17,324.64 | 12,651.64 | |
| 森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号) | 1,560.22 | 5,282.70 (本校舎) | |
| 森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号) | 530.56 | 936.74 (緑橋校舎) | |
| 森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本2丁目5番41号) | — | 2,150.98 | アネックス校舎 |
| 森ノ宮医療学園専門学校 計 | 2,090.78 | 8,370.42 | |
| (大学+専門学校) 合計 | 19,415.42 | 21,022.06 | |

5. 役員概要

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

定員数：理事 8～12 名、監事 2 名

| 役員 | 氏名 | 役員就任年月日 | 寄附行為上の選任区分 | 備考 |
|-----|-------|--------------|------------|---------------|
| 理事長 | 清水尚道 | 平成 22 年 4 月 | 7-1-1 | 森ノ宮医療学園専門学校校長 |
| 理事 | 荻原俊男 | 平成 23 年 4 月 | 7-1-1 | 森ノ宮医療大学学長 |
| 理事 | 安田実 | 平成 11 年 5 月 | 7-1-3 | |
| 理事 | 三木完二 | 平成 9 年 5 月 | 7-1-2 | |
| 理事 | 花谷幸比古 | 平成 9 年 5 月 | 7-1-2 | |
| 理事 | 中田敬吾 | 平成 14 年 5 月 | 7-1-3 | |
| 理事 | 尾崎朋文 | 平成 25 年 4 月 | 7-1-2 | |
| 理事 | 森優也 | 平成 25 年 4 月 | 7-1-2 | |
| 理事 | 小島賢久 | 平成 25 年 4 月 | 7-1-2 | |
| 理事 | 吉川徹 | 平成 25 年 7 月 | 7-1-3 | |
| 理事 | 金尾顕郎 | 平成 27 年 4 月 | 7-1-3 | |
| 理事 | 青木元邦 | 平成 27 年 4 月 | 7-1-3 | |
| 監事 | 日根野文三 | 平成 11 年 5 月 | | |
| 監事 | 小林由幸 | 平成 14 年 10 月 | | |

6. 評議員概要

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

定員数 17～25 名

| 役員 | 氏名 | 寄附行為上の選任区分 |
|-----|-------|------------|
| 評議員 | 田畑京美 | 25-1-1 |
| 評議員 | 川鍋史一 | 25-1-1 |
| 評議員 | 金尾顕郎 | 25-1-1 |
| 評議員 | 山下 仁 | 25-1-1 |
| 評議員 | 村上生美 | 25-1-1 |
| 評議員 | 鍋田智之 | 25-1-1 |
| 評議員 | 青木元邦 | 25-1-1 |
| 評議員 | 宮崎義雄 | 25-1-1 |
| 評議員 | 花谷幸比古 | 25-1-2 |
| 評議員 | 三木完二 | 25-1-2 |
| 評議員 | 森 俊豪 | 25-1-2 |
| 評議員 | 浜田 暁 | 25-1-2 |
| 評議員 | 清水尚道 | 25-1-2 |
| 評議員 | 尾崎朋文 | 25-1-2 |
| 評議員 | 奥田 功 | 25-1-3 |
| 評議員 | 河内 明 | 25-1-3 |
| 評議員 | 鈴木 紘 | 25-1-3 |
| 評議員 | 尾本禎男 | 25-1-3 |

| | | |
|-----|------|--------|
| 評議員 | 下條喜信 | 25-1-3 |
| 評議員 | 築山房乃 | 25-1-3 |
| 評議員 | 房前素徳 | 25-1-3 |
| 評議員 | 森 優也 | 25-1-3 |
| 評議員 | 小島賢久 | 25-1-3 |
| 評議員 | 葉山直史 | 25-1-3 |
| 評議員 | 吉岡敏治 | 25-1-3 |

7. 教職員の概要

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

● 専門学校・診療所

| 区分 | 専任 | 兼任(またはパート) | 合計 |
|-------|----|------------|-----|
| 教員 | 31 | 66 | 97 |
| 職員 | 24 | 8 | 32 |
| 診療所職員 | 18 | 0 | 18 |
| 合計 | 73 | 74 | 147 |

● 大学

| 区分 | 専任 | 兼任(またはパート) | 合計 |
|----|-----|------------|-----|
| 教員 | 85 | 113 | 198 |
| 職員 | 34 | 5 | 39 |
| 合計 | 119 | 118 | 237 |

(参考：平成 26 年 4 月 1 日時点)

● 専門学校・診療所

| 区分 | 専任 | 兼任(またはパート) | 合計 |
|-------|----|------------|-----|
| 教員 | 35 | 65 | 100 |
| 職員 | 21 | 4 | 25 |
| 診療所職員 | 16 | 0 | 16 |
| 合計 | 72 | 69 | 141 |

● 大学

| 区分 | 専任 | 兼任(またはパート) | 合計 |
|----|-----|------------|-----|
| 教員 | 87 | 111 | 198 |
| 職員 | 29 | 6 | 35 |
| 合計 | 116 | 117 | 233 |

8. その他

●主な加盟団体

| | 加盟団体 | 部門 | 主管部署 | 備考 |
|----|-------------------------|------|--------|--------------|
| 1 | 公益社団法人 私学経営研究会 | 法 | 法人本部 | 学校関係 |
| 2 | NPO法人 学校経理研究会 | 法 | 法人本部 | |
| 3 | 全国専修学校各種学校総連合会 | 専 | 事務局 | |
| 4 | 社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会 | 専 | 事務局 | |
| 5 | 公益財団法人 日本高等教育評価機構 | 大 | 総務室 | |
| 6 | 都市圏高等教育懇談会 | 大 | 総務室 | |
| 7 | 日本私立大学協会 | 大 | 総務室 | |
| 8 | 日本私立大学協会関西支部 | 大 | 総務室 | |
| 9 | 西日本私立大学振興協議会 | 大 | 経営企画室 | |
| 10 | 大阪府私立大学連絡会 | 大 | 総務室 | |
| 11 | 特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 | 大 | 教務室 | |
| 12 | 関西地区FD連絡協議会 | 大 | 経営企画室 | |
| 13 | 関西学生就職指導研究会 | 大 | 学生支援室 | |
| 14 | 日本アロマコーディネーター協会 | 専 | 事務局 | |
| 15 | 公益社団法人 東洋療法学校協会 | 専 | 鍼灸学科 | 鍼灸関係 |
| 16 | 公益社団法人 全日本鍼灸学会 | 共/大関 | 鍼灸学科 | |
| 17 | 一般社団法人 メディカル・フィットネス協会 | 大 | 鍼灸学科 | |
| 18 | 一般社団法人 全国リハビリテーション学校協議会 | 大 | 理学療法学科 | 理学療法 関係 |
| 19 | 一般社団法人 近畿リハビリテーション学校協議会 | 大 | 理学療法学科 | |
| 20 | 一般社団法人 日本私立看護系大学協議会 | 大 | 看護学科 | 看護関係 |
| 21 | 一般社団法人 日本看護系大学協議会 | 大 | 看護学科 | |
| 22 | 公益社団法人 全国助産師教育協議会 | 大 | 看護学科 | |
| 23 | 一般社団法人 全国保健師教育機関協議会 | 大 | 看護学科 | |
| 24 | 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 | 専/大関 | 柔道整復学科 | 柔道整復 関係 |
| 25 | 公益社団法人 日本柔道整復接骨医学会 | 専 | 柔道整復学科 | |
| 26 | 私立大学図書館協会 | 大 | 図書館 | 図書館 関係 |
| 27 | 日本看護図書館協会 | 大 | 図書館 | |
| 28 | 一般社団法人 日本温泉気候物理学会 | 大 | 図書館 | |
| 29 | 一般社団法人 日本東洋医学会 | 大 | 図書館 | |
| 30 | 社団法人大阪市防火管理協会 | 専 | 事務局 | 広報関係 地域関連 |
| 31 | 東成防火協力会 | 専 | 事務局 | |
| 32 | 中本連合中本第一町会 | 専 | 事務局 | |
| 33 | コスモスクエア地区開発協議会 | 大 | 経営企画室 | |
| 34 | 公益社団法人 日本医師会 | 法 | 附属診療所 | 診療所 関係 |
| 35 | 一般社団法人 大阪府医師会 | 法 | 附属診療所 | |
| 36 | 一般社団法人 東成区医師会 | 法 | 附属診療所 | |

Ⅱ. 事業の概要

1. 学園全体

平成 27 年度の主な事業の遂行状況は、以下の通りである。

1. 森ノ宮医療大学（以下、大学と表記）における平成 28 年度の新学科（臨床検査学科・作業療法学科の 2 学科）および助産学専攻科の開設をにらみ、南校地に約 11,000 m²の校舎を新築することについて設計監理を株式会社永田建築研究所に、施工を株式会社鴻池組に発注し、建築工事契約を締結した。なお、当初平成 27 年度内に竣工の予定であったが、土壌改良等の工事の追加もあり、平成 28 年度（平成 28 年 4 月末日）に竣工となる予定であることから、文部科学省に報告相談した。
2. 大学においては、すでにその中期計画の中で、2,000 人規模の収容定員を持つ医療系総合大学とすることを目標と掲げているが、現状、大学設置基準上、校地として算入できるのは 16,000 m²すなわち上限として 1,600 人（大学設置基準上必要な耕地面積は学生一人あたり 10 m²）であるので、僅かであるがこの基準に満たないこと、また大学設置基準は必要最低限のものとみれば実質的には、現在のコスモスクエア地区以外にも校地を探し、新たに買い入れもしくは 20 年以上の定期権付借地を借りなければならず、そのための検討を行った。具体的にはコスモスクエア地区のある咲洲ではなく、トンネルを経て隣の舞洲地区に大阪市港湾局が売り主となっている土地があるので、その土地入手のための公募に応じる等の打診をし、土地購入または借地の可能性について検討を重ねた。そこで、平成 27 年 7 月にはこの土地購入の実現を図るため、事業計画の変更と補正予算について評議員会および理事会において審議した。しかし、このことについては、年度末に本学の西隣にある空地が、結婚式場等の開発計画の頓挫により、所有者の大阪トランスポートシステムから新たに売却する土地情報を得た（このことについては、平成 28 年度に結論を出す予定）。
3. 森ノ宮医療学園専門学校（以下専門学校と表記）活性化策として、奨学金の整備（ファミリー奨学金の実施等）および指定校推薦入試の進学者を一定数確保するために、教科書の無償提供を実施した。
4. 中期経営計画の中核施策の改訂を行った。具体的には、専門学校について耐震補強工事もしくはキャンパス移転について広く検討すること。大学においては平成 28 年度の新学科開設以降の計画として大学院博士後期課程を新設すること、臨床工学科の開設に向け準備すること、看護学科に第 1 種養護教諭免許取得のコースを設置すること、学園ブランドの向上策などが織り込まれた。加えて、大学における重要課題である国家試験合格者数の目標値等も定量的に定めた。
5. 日本鍼灸師会、全日本鍼灸マッサージ師協会、全日本鍼灸学会、東洋療法学校協会の 4 団体で構成される「国民のための鍼灸医療推進機構（略称 AcuPOPJ）」について本学園は全面的に協力することとし、平成 27 年 5 月学園附属「みどりの風鍼灸院」は鍼灸師卒後臨床研修実習施設として認定された。
6. 専門学校においては、第 1 期中期計画に基づき、あるいは職業実践専門課程の認証を受けるにあたって必須の外部有識者と学校内の学科運営部署からなる「教育課程編成委員会」によるそれぞれ単位の実質化や 2 学年に渡って重複する科目の整理、単位数の大きい科目の細分化等を図ることでより明確なカリキュラムポリシーの実現を図るための教育課程の編成とし、学則を変更するに至った。なお、これに関連して、平成 27 年度から鍼灸師養成施設、柔道整復師養成施設の所轄官庁が厚生労働省から都道府県知事に移管され、それに伴い本校の相談、変更申請届出等一連の事務関連業務は、近畿厚生局から大阪府保健医療企画課に移管した。
7. 大学において平成 27 年度私立大学等改革総合支援事業補助金に応募し採択された。さらに「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」についても採択され、この整備

事業と「私立大学等教育研究施設整備費補助金」についてそれぞれ補助金が交付された。

8. 大学および専門学校において電力供給の自由化に伴い、平成 28 年から関西電力株式会社の供給から、オリックス株式会社から電力の購入窓口を変更した。
9. 大学を持つ法人の運営面について、経営が適切になされているかどうかという目的で文部科学省高等教育局参事官室を主管とする「学校法人運営実地調査」が毎年 30 法人ほど実施されているが、本学園においても 9 月 1 日に受審し、その結果適切である旨の調査結果を得ることができた。
10. 大学において文部科学省から正式に臨床検査学科、作業療法学科、助産学専攻科の開設について届出受理がなされたので、寄附行為を変更した。
11. 専門学校においては、大阪社会体育専門学校と連携して相互の学校に通学するいわゆるダブルスクールが可能な体制構築に向け学費その他を整備した。大阪社会体育専門学校は日本体育協会認定のアスレチックトレーナーの養成コースがあり、本校には鍼灸師柔道整復師の国家資格取得の途があることから、相互に連携することで学生にとって相互に関連するダブルライセンスも取得可能なことからニーズがあり、学校としても相互にメリットが出てくるとの認識をしている。
12. 専門学校では、米国フロリダにある鍼灸学科を設置する Florida College of Integrative Medicine(FCIM) との提携を検討することになった。
13. 大学において、新校舎竣工に伴い既存校舎拡張の利便性向上のため、東棟にある学生支援室および西棟にある売店の移築等の工事を完了した。
14. 平成 28 年度は大学設立からちょうど 10 周年となることから記念式典の実施、著名人による基調講演、記念誌の発刊や学会等の開催をすることを決定した。
15. 平成 28 年度から導入実施する人事制度について教職員に対して説明会を専門学校、診療所、大学のそれぞれ事業所ごとに実施した。概略としては、新たな職位職能給の実施、職位認定と職能要件の明確化、賞与については目標達成制度を導入して賞与算定基準を設け、それに応じて支給するように変更する。退職金については現行制度を廃止してポイント制を導入する等の変更を実施することとした。
16. 大学において、Morinomiya English Education Program(略称 MEEP)を実施するにあたり、海外研修の実施を計画した。
17. 専門学校において、大阪府保健医療室保健医療企画課維医事グループによる「運営指導調査」が実施された。調査終了後の講評については養成施設指導ガイドラインの見地から一部確認すべき事もあるとのことであったが、最終的には重要な指導事項や法令違反等はなかったとの結果が伝えられた。

2. 森ノ宮医療大学

(1) 実施事業の概要

【平成 27 年度目標】

開学 10 年目を迎えるにあたり、医療系総合大学への変革等による大学のブランディング、関西圏における医療職養成大学の中でのプレゼンスを高める。

1) 医療系総合大学への変革

① 新学科・新校舎設立

既存の看護学科・理学療法学科・鍼灸学科に加え、作業療法学科・臨床検査学科・助産学専攻科の設置を計画し、準備に取り組んだ。平成 28 年度 4 月よりこれら学科・専攻科の新設に至り、保健医療学部は様々な医療専門職を養成する 5 学科を擁し、大学院保健医療学研究科・助産学専攻科と合わせ、医療系総合大学へと大きく飛躍することとなった。それに伴い、新校舎を建築した。既存のイーストポート・ウェストポートに新校舎キャナルポートが加わり、全 3 棟となった。学生数の増加に対応し、新校舎では体育館 (MTC: メディカルトレーニングセンター)・図書館 (メディカル・アイ) を充実させた。

② チーム医療教育の実践

医療系大学として提供する教育の軸を、これまでの「東西医療の融合」から「チーム医療実践力」へと大きく変革させた。医療技術の革新的進歩とそれに伴う各種医療職の専門性の深化により、これまで以上にチーム医療が重要視されており、そのような医療現場のニーズにマッチさせた。さらに、超高齢社会における高齢者医療の在り方・疾病の治療のみならず ADL・QOL に重きを置く全人的医療にもチーム医療は必須であり、社会的ニーズにもマッチするものである。この「チーム医療」のコンセプトは医療職を目指す受験者層にも大きなインパクトを与えた。医療系総合大学であることで可能となる「チーム医療教育実践」の打ち出しは、作業療法学科・臨床検査学科・助産学専攻科の新設により多岐にわたる医療専門職を養成する本学の魅力をさらに強化するものであり、実際、平成 27 年度の WEB サイトアクセス数・オープンキャンパスアクセス数は顕著に増加し、受験出願者数は前年度比 99.7%増を達成した。

③ 専門職間連携教育 IPE (Interprofessional Education) の導入

IPW (Inter Professional Work) (専門職連携) は複数の専門職が協働し、患者の疾病治療や様々な要望に応える現代医療のコアとなる形態であり、いわゆる「チーム医療」として展開されている。「チーム医療教育実践」を打ち出した本学は、IPW 教育の支柱として、チーム医療でリーダーシップを取れる人材の輩出を目指し、専門職間連携教育 IPE (Interprofessional Education) の平成 28 年度カリキュラムへの導入に取り組んだ。平成 28 年度からはまず既存の 3 学科で実施されることとなる。本学の IPE カリキュラムは、設定した症例ごとに各学科学生がチームを構成し、各専門職の知識・スキルを最大限に生かしつつ協働するチームとして、患者へのアプローチを構築する。医師を中心に各専門職教員が指導のもと、カンファレンス形態で実施し、病院で実際に行われる症例検討会を模擬的に体験させる。本形態授業は、医療人育成プログラムとして全国的にも稀なカリキュラムであり、医療系総合大学の最大のアドバンテージである。

2) 教学面の充実

① 質の高い教育水準の確保

学生授業アンケート・公開授業の結果や、自己点検評価 FSD 委員会内に新たに組織した「教育方法改善部会」により提言された授業手法に関して、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を積極的に実施し、教育手法を維持・向上させた。また、カリキュラムマップ整備による教育目標の明確化・シラバスの充実・客観的評価指標ルーブリックの策定・導入・公開を行い、学生に理解しやすい本学教育プログラムを提供することで主体的学修姿勢の醸造に取り組んだ。医療系大学における演習評価に対するルーブリックの有用性も検証し、「徒手筋力検査技術のためのルーブリック評価導入」として「リハビリテーション教育研究」に公表した。

また実習施設として、相互連携協定を締結している大阪府立急性期総合医療センター・北野病院・医療法人協和会等をはじめ、地域の基幹病院が豊富であり、高度な臨地実習を展開した。

さらに、各学科特性に応じ緻密にプログラム化された国家試験対策を構築した。ブラッシュアップされたシステムティックな国家試験対策の提供と同時に、チューター制度・担任制度による個別指導を導入することで、看護学科では看護師・保健師ともに国家試験合格率 100%、鍼灸学科では大学トップレベルの国家試験合格率、理学療法学科においても全国平均を上回る国家試験合格率を達成した。本学が提供する教育水準の質の向上により、平成 26 年度に比し、平成 27 年度学生満足度・在校生本学推奨度が上昇した。

② 低学年教育の充実

リメディアル教育・一般常識教育・基礎医学教育・国家試験対策支援の連続性を重視し、低学年からの学習支援に取り組んだ。低学年におけるリメディアル教育・医療専門職の基盤となる基礎医学教育に関し、学科特性に呼応した補講体制を、学習支援センターを核として学科・共通教育部門が緊密に連携しながら構築した。学生全体としてのボトムアップを目指し、留年率・早期退学率を抑制する学修支援システムを構築した。

③ 目標管理システムの導入

平成 27 年度より教員に目標管理システムを導入した。これにより、各教員の教育・研究等に対する年度目標が明確となり、同時に学科全体の方向性の確認や、その中における各教員の役割を意識付けでき、教育力向上や自己研鑽によるスキルアップに寄与すると考えられる。平成 28 年度にはそれに対する評価システム・フィードバック手法を充実させ、効果的な目標管理システムシステムの構築を完成させる。

3) 卒後支援

① 就職ガイダンスの強化

学生支援室による就職説明会の実施、チューター制度・担任制度による個々の学生へのきめ細やかな就職支援により、高い就職率を達成した。特に看護学科では、7 対 1 病院への就職率が 88.7%、300 床以上病院への就職率が 100%であり、ブランド力のある病院への就職率は非常に高かった。

② 卒後教育センターの設置

卒業後の医療人としてのキャリアを進めるためには、卒後の継続した学習が重要になるが、本学を含め多くの医療専門職養成大学において、十分な卒後教育の取り組みは行われていない。大学ブランド力構築のためには、卒前教育の充実に留まらず、卒後教育を見直す必要があり、大学として継続教育支援プログラムを展開する卒後教育センターを新たに

設置した。特に理学療法士が勤務する病院施設において、1～2人職場が多く、職場での研修制度は期待できないため、卒後教育センターの必要性は高い。平成27年度は既に下記事業を実施した。

- ・ 卒業生及び大学近隣の理学療法士に対する卒後教育の提供（2回実施）
- ・ 徳島大学歯学部解剖学実習室での基礎医学再教育
- ・ 森ノ宮適塾（講座と文献抄読）の実施（2回/月）

4) 研究機関としての体制整備と研究活動の充実

① 適切な研究活動体制の構築

「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の大幅改訂に対応させ、学術研究委員会及び研究支援グループが中心となり、各種研究活動に関する本学規程並びに研究費執行ルール的大幅改訂を行い、研究不正・研究費不正を防止する適切なシステムを構築した。さらにコンプライアンス推進責任者を新たに設置し、コンプライアンス推進責任者・内部監査室・研究支援グループで構成される防止計画推進部署が不正防止計画を策定した。また、研究倫理教育・コンプライアンス研修を実施し、研究者のみならず関係する職員にも受講を義務付けた。

② 文部科学省 科学研究費助成事業における競争的研究資金獲得状況

<継続>

- ・ 基盤研究 (C) 山下 仁 「急増した鍼灸学科の医療安全教育の評価と、質の保持・向上のためのコンテンツ開発」
- ・ 基盤研究 (C) 荻原 俊男 「医療系大学における教員養成の意義と課題についての総合的研究」
- ・ 基盤研究 (C) 伊津美 孝子 「21世紀型中間看護管理者の情報活用能力変革プログラムの開発」
- ・ 基盤研究 (C) 緒方 昭子 「ソフトマッサージの苦痛緩和効果の検証」
- ・ 基盤研究 (C) 前田 薫 「立位位置が上肢運動時の予測的姿勢制御および注意・予測に関わる脳電位におよぼす影響」
- ・ 基盤研究 (C) 増山 祥子 「代替医療系研究論文の利益相反と結論に関するシステムティック・レビュー」
- ・ 基盤研究 (C) 青木 元邦 「軟骨局所 RA 系の役割と意義：高血圧と軟骨変性疾患の相関分子メカニズム」
- ・ 若手研究 (B) 澤田 優子 「ハイリスク新生児の運動発達と育児環境が発達軌跡に及ぼす影響」
- ・ 若手研究 (B) 上田 真也 「 ^{13}C 安定同位体比分析を用いた高強度運動時の骨格筋糖脂質代謝動態の定量解析」
- ・ 若手研究 (B) 上田 佳世 「院内助産における医療の質指標の実用化に向けた研究」

<新規>

- ・ 基盤研究 (B) 宮本 忠吉 「システム定量解析を用いた運動時換気亢進の病理生理機構の解明」
- ・ 基盤研究 (C) 中原 英博 「呼吸循環代謝システムの長期トレーニング適応における順序発現機構の解明」
- ・ 基盤研究 (C) 酒井 ひろ子 「能動喫煙・受動喫煙の累積喫煙量をもたらす卵巣予備能低下と生活習慣病リスクの評価」
- ・ 基盤研究 (C) 吉村 弥須子 「生体肝移植ドナーの妊娠・出産の体験と医療支援に関する研究」

- ・ 若手研究 (B) 工藤 慎太郎 「偏平足の三次元足部挙動に基づく足底挿板の開発」

5) 研究成果の発信

積極的な研究活動が行われ、下記査読付き学術論文が発信された。

1. Ogihara T, Saruta T, Rakugi H, Saito I, Shimamoto K, Matsuoka H, Teramukai S, Higaki J, Ito S, Shimada K for the COLM investigators. Combination therapy of hypertension in the elderly: a subgroup analysis of the Combination of OLMesartan and a calcium channel blocker or diuretic in Japanese elderly hypertensive patients trial. *Hypertension Research* 38: 89-96, 2015
2. Saruta T, Ogihara T, Saito I, Rakugi H, Shimamoto K, Matsuoka H, Teramukai S, Higaki J, Ito S, Shimada K for the COLM Investigators. Comparison of olmesartan combined with a calcium channel blocker or a diuretic in elderly hypertensive patients (COLM Study): safety and tolerability. *Hypertension Research* 38:132-136, 2015
3. Rakugi H, Ogihara T, Saruta T, Kawai T, Saito I, Teramukai S, Shimada K, Katayama S, Higaki J, Odawara M, Tanahashi N, Kimura G for the COLM Investigators. Preferable effects of olmesartan/calcium channel blocker to olmesartan/diuretic on blood pressure variability in very elderly hypertension: COLM study subanalysis. *Journal of Hypertension* 33:2165-2172, 2015
4. Umemoto S, Ogihara T, Matsuzaki M, Rakugi H, Ohashi Y, Saruta T, the Combination Therapy of Hypertension to Prevent Cardiovascular Event (COPE) Trial Group. Effects of calcium channel blocker-based combinations on intra-individual blood pressure variability: post hoc analysis of the COPE trial. *Hypertension Research* 39:45-53, 2016
5. Yoshimura Y, Umeshita K, Kubo S, Yoshikawa Y. Anxieties and coping methods of liver transplant recipients regarding pregnancy and delivery. *Journal of Advanced Nursin* 2016 in press
6. Izumi T, Majima Y. Education methods for improving the ability to use nursing information, with a focus on issues related to the role of the head nurse: A post-workshop evaluation. *International Nursing Informatics* 2016 in press
7. S.Kudo, Y.Hatanaka. Forefoot flexibility on medial tibial stress syndrome. *Journal of Orthopedics Surgery*. 2015;23(3):357-360.
8. S.Kudo, T. Hisada, T.Sato. determination of the fascicle length of the gastrocnemius muscle during calf raise exercise using ultrasounography. *J.phys.Ther. Sci.* 2015; 27:3763-3766.
9. Kato T, Seki S, Higashiyama M, Masuda Y, Kitamura S, Yoshida A. Anatomical organization of descending cortical projections orchestrating the patterns of cortically induced rhythmical jaw muscles activity in guinea pigs. *Neurosci Res* 99:34-45 2015
10. Masui T, Seki S, Sumida K, Yamashita K, Kitamura S. Gross anatomical classification of the courses of the human sublingual artery. *Anat Sci Int* 91(1):97-105 2016
11. Takamaru N, Nagai H, Ohe G, Tamatani T, Sumida K, Kitamura S, Miyamoto Y. Measurement of the zygomatic bone and pilot hole technique for safer insertion of zygomatic implants. *Int J Oral Maxillofac Surg* 45:104-109.
12. Naka M, Fujiwara K, Kiyota N. Postural responses to various frequencies of vibration of the triceps surae and forefoot sole during quiet standing. *Perception*. 2015; 44: 39-5

13. Kanao K, Shiraishi M, Higashimoto H, Maeda K, Sugiya R, Okajima S, Chiba Y, Yamagata T, Terada K, Fukuda F, Tohda Y. Factors associated with the effect of pulmonary rehabilitation on physical activity in patients with chronic obstructive pulmonary disease. 2016 in press
14. Kawahata H, Sotobayashi D, Aoki M, Shimizu H, Nakagami H, Ogihara T, Morishita R. Continuous infusion of angiotensin II modulates hypertrophic differentiation and apoptosis of chondrocytes in cartilage formation in a fracture model mouse. *Hypertens Res.* 2015, 38(6): 382-393.
15. Aoki M, Kawahata H, Sotobayashi D, Yu H, Moriguchi M, Nakagami H, Ogihara T, Morishita R. Effect of Angiotensin II Receptor Blocker, Olmesartan, on Turnover of Bone Metabolism in Bedridden Elderly Hypertensive Women with Disuse Syndrome. *Geriatr Gerontol Int.* 2015 15(8): 1064-72.
16. Miyamoto T, Nakahara H, Ueda S, Manabe K, Kawai E, Kawada T, Sugimachi M. Periodic breathing in heart failure explained by dynamic and static properties of respiratory control. *Clin Med Insights Cardiol* 9: 133-142, 2015.
17. Ogoh S, Sugawara J, Hirasawa A, Nakahara H, Ueda S, Shoemaker JK, Miyamoto T. The effect of an acute increase in central blood volume on the response of cerebral blood flow to acute hypotension. *J Appl Physiol* 119: 527-533, 2015.
18. Nakahara H, Ueda S, Miyamoto T. Low-Frequency severe-intensity interval training improves cardiorespiratory functions. *Med Sci Sports Exerc* 47: 789-798, 2015.
19. Nakahara H, Kawada T, Ueda S, Kawai E, Yamamoto H, Sugimachi M, Miyamoto T. Electroacupuncture most effectively elicits depressor and bradycardic responses at 1 Hz in humans. *Auton Clin Res* 26: 59-66, 2015.
20. Ogoh S, Sato K, Okazaki K, Miyamoto T, Hirasawa A, Sadamoto T, Shibasaki M. Blood flow in internal carotid and vertebral arteries during graded lower body negative pressure in humans. *Exp. Physiol.* 100: 259-266, 2015.
21. Kawai E, Nakahara S, Ueda S, Miyamoto T. Effect of inhalation of different concentrations of grapefruit essential oil on cardiorespiratory function. *Proc. Life Engineering.* 15: 344-348, 2015.
22. Ueda S, Nakahara H, Manabe K, Miyamoto T. Neural regulation of hindlimb muscle contraction-induced glucagon-like peptide-1 and peptide YY secretion in rats. *J Phys Fitness Sports Med*, 4(1), 125-131, 2015.
23. Uchino K, Higashiyama K, Kato T, Haque T, Sato F, Tomita A, Tsutsumi K, Moritani M, Yamamura K, Yoshida A. Jaw movement-related primary somatosensory cortical area in the rat. *Neuroscience.* 2015 284:55-64.
24. 酒井ひろ子. ニコチン薬理作用・ニコチン依存度の性差～女性の禁煙対策の課題～日本ウーマンズヘルス学会誌 Vol.14-2.1-8 2015
25. 吉田えり, 山田和子, 森岡郁晴. 看護師のストレス反応に対する「いいね!」ソーシャル導入の効果. *産業衛生学雑誌* 2016 ; 58(1) : 1-10.
26. 外村昌子. 介護老人福祉施設における車いす使用高齢者のリスクとリスク因子に関する看護師の理解. *老年看護学* 2015 ; 20(1) ; 97-104.
27. 三津橋 佳奈, 前沢 智美, 川村 和之, 工藤慎太郎 正常歩行時の側腹筋群の動態 —超音波画像診断装置を用いて— *理学療法科学* 2015 ; 30(6) : 861-865.
28. 颯田季央, 中村翔, 川村和之, 浅田啓嗣, 工藤慎太郎. 肩甲下筋の動態を意識したストレッチング方法の即時効果 - 二重盲検ランダム化クロスオーバーデザインによる検討 - *徒手理学療法* 2015 ; 15(1) : 9-14.
29. 前沢智美, 三津橋佳奈, 颯田季央, 中村翔, 川村和之, 工藤慎太郎. 片脚ブリッ

- ジ時における挙上側・支持側の内腹斜筋・腹横筋の観察 ～超音波画像診断装置を用いて～ 愛知県理学療法学会誌 2015 ; 27(1) : 7-11
30. 中村翔, 颯田季央, 山内仁詩, 工藤慎太郎. 超音波画像診断装置を用いた膝屈曲自動運動時の外側広筋の動態観察. 愛知県理学療法学会誌 2015; 27(1) : 12-15.
 31. 福島豊, 北川裕利, 野坂修一. カリウム吸着除去用血液フィルターを用いた急速輸血におけるカリウム除去性能の検討. 蘇生 34(1); 22-24, 2015.
 32. Fumihiko SHIMADA and Shuichi NOSAKA. Our experience with the dental loss caused by anesthesia: a report on Sorry Work. 麻酔と蘇生 51, 2015
 33. 鍋田智之, 山下仁. 不眠に対する円皮鍼治療の効果 - シャム鍼対照 N-of-1 試験 -. 全日本鍼灸学会雑誌, 65(2) : 91-98, 2015.
 34. 藤重仁子. 『A Review of Theoretical Frameworks of the International Migration: Mechanisms of Forming the Pools of Potential Emigrants to the United States 国際移民の理論的枠組みの概観ーアメリカ合衆国への潜在的移民の形成ー』. 森ノ宮医療大学紀要第 8 号 2015
 35. 高崎雷太, 藤沼到, 鶴田真到, 老田準司, 永瀬佳孝. ハーフパイプにおける複合運動学習. 森ノ宮医療大学紀要第 8 号 2015
 36. 西尾明憲, 山下仁. B 型慢性肝炎の灸治療症例集積ー歴史的対照群との比較ー. 森ノ宮医療大学紀要. 2016; 9/10: 117-128.
 37. 大川祐世, 保坂政嘉, 増山祥子, 山下仁. 各種 sham 鍼対照ランダム化比較試験における鍼の効果量の違い: メタアナリシスによる検討. 森ノ宮医療大学紀要. 2016; 9/10: 129-144.
 38. 大月隆史, 増山祥子, 保坂政嘉, 山下仁. 鍼治療の診療ガイドラインの可能性と限界 慢性腰痛に対する鍼治療技法のガイドライン試作による検討. 森ノ宮医療大学紀要. 2016; 9/10: 145-162.
 39. 中谷彪, 老田準司, 安田実, 松熊秀明. 医療系大学における保健体育科教育養成制度の総合的研究 森ノ宮医療大学紀要. 2016; 9/10
 40. 中谷彪, 松熊秀明, 吉川有葵. フランスの大学における保健体育科養育養成制度の調査研究 森ノ宮医療大学紀要. 2016; 9/10

6) 平成 27 年度連携協定

- ①平成 27 年 4 月 15 日 大阪市教育委員会 連携協定
- ③ 平成 27 年 7 月 27 日 守口市教育委員会 連携協定
- ④ 平成 28 年 1 月 29 日 社会福祉法人帝塚山福祉会 相互連携協定

7) 社会貢献事業: 平成 27 年度実施の公開講座

- ①市民公開講座 (急性期総合医療センターとの連携事業)
 - ・ 平成 27 年 6 月 21 日 (日) 第 1 回「臨床検査の進歩」
 - 基調講演 臨床検査の過去・現在・未来
 - 講演 I 心臓エコー検査の進歩
 - 講演 II 心肺機能検査とリハビリテーション
 - 講演 III 臨床検査と看護
 - ・ 平成 27 年 9 月 13 日 (日) 第 2 回「胃がん」
 - 基調講演 胃がん手術周術期から社会復帰へのケア
 - 講演 I 胃がんの手術と看護
 - 講演 II 消化器がん 予防と運動
 - 講演 III がん治療と鍼治療
 - ・ 平成 27 年 11 月 1 日 (日) 第 3 回「関節リウマチ」
 - 基調講演 関節リウマチー診断と治療
 - 講演 I 関節リウマチとリハビリテーション

講演Ⅱ 関節リウマチと鍼灸療法

講演Ⅲ 関節リウマチと看護

②駅前健康講座（大学経営企画室主催）

・平成 28 年 3 月 23 日（水）第 1 回「花粉症」

8) 大学院保健医療学研究科

①研究指導および学位授与

特別研究（いわゆる修士論文）の指導を行い、7 名の修了者に修士（保健医療学）の学位を授与した。

②大学院教員組織の再検討

大学院における教育研究活動の現状にもとづき、平成 28 年度からの大学院兼務教員の選考を行った。その結果、大学院の教育研究に従事する教員（学部と兼務）の人数を適正と思われる数に削減することとした。

③博士後期課程設置検討

学内の設備及び教員の現状から博士後期課程を設置することが可能かどうか調査検討した。外部のコンサルタントの意見なども考慮し、総合的に判断し、博士後期課程の設置申請をすることとした。平成 29 年 3 月に書類提出し、平成 30 年度開設を目標として申請準備を開始した。

9) 人権問題啓発活動

①研修会の開催 2 回

・第 1 回研修会

日時：平成 27 年 9 月 3 日（木）

講師：常磐会学園大学 佐谷 力 先生

研修会テーマ：学生とのかかわりに大切なこと

・第 2 回研修会

日時：平成 28 年 3 月 10 日（木）

講師：森ノ宮医療大学 広報室 参事 小山正辰先生

研修会テーマ：今どきの人権 LGBT と社会

②教職員用 SNS 利用と学生の接し方についてのガイドライン策定

(2) 事業成果の概要

① 在学生数・定員充足率・退学者数等の推移

| 学生数 | | H25. 5. 1 | H26. 5. 1 | H27. 4. 1 | H284. 1 |
|-------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|
| 鍼灸学科 | 1年生 | 68 | 68 | 64 | 67 |
| | 2年生 | 52 | 61 | 67 | 63 |
| | 3年生 | 53 | 51 | 58 | 64 |
| | 4年生 | 59 | 57 | 57 | 60 |
| | 計 | 232 | 237 | 246 | 254 |
| 定員 | | 240 | 240 | 240 | 240 |
| 定員充足率 | | 96.7% | 98.8% | 102.5% | 105.8% |
| 退学者数 | | 11 | 9 | 7 | — |
| 退学率 | | 4.7% | 3.7% | 2.8% | — |

| 学生数 | | H25. 5. 1 | H26. 5. 1 | H27. 4. 1 | H284. 1 |
|------------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|
| 理学療法 学科 | 1年生 | 68 | 68 | 70 | 70 |
| | 2年生 | 67 | 65 | 67 | 70 |
| | 3年生 | 70 | 64 | 63 | 62 |
| | 4年生 | 67 | 82 | 70 | 69 |
| | 計 | 272 | 279 | 270 | 271 |
| 定員 | | 240 | 240 | 240 | 240 |
| 定員充足率 | | 113.3% | 116.3% | 112.5% | 112.9% |
| 退学者数 | | 7 | 5 | 9 | — |
| 退学率 | | 2.6% | 1.7% | 3.3% | — |

| 学生数 | | H25. 5. 1 | H26. 5. 1 | H27. 4. 1 | H284. 1 |
|-------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|
| 看護学科 | 1年生 | 88 | 88 | 90 | 90 |
| | 2年生 | 88 | 85 | 88 | 89 |
| | 3年生 | 84 | 86 | 83 | 86 |
| | 4年生 | — | 82 | 97 | 96 |
| | 計 | 260 | 341 | 358 | 361 |
| 定員 | | 240 | 320 | 320 | 320 |
| 定員充足率 | | 108.3% | 106.6% | 111.9% | 112.8% |
| 退学者数 | | 7 | 8 | 6 | — |
| 退学率 | | 2.7% | 2.3% | 1.7% | — |

| 学生数 | | H25. 5. 1 | H26. 5. 1 | H27. 4. 1 | H284. 1 |
|--------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|
| 臨床検査学科 | 1年生 | — | — | — | 72 |
| | 2年生 | — | — | — | — |
| | 3年生 | — | — | — | — |
| | 4年生 | — | — | — | — |
| | 計 | — | — | — | 72 |
| 定員 | | — | — | — | 60 |
| 定員充足率 | | — | — | — | 120% |
| 退学者数 | | — | — | — | — |
| 退学率 | | — | — | — | — |

| 学生数 | | H25. 5. 1 | H26. 5. 1 | H27. 4. 1 | H284. 1 |
|--------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|
| 作業療法学科 | 1年生 | — | — | — | 50 |
| | 2年生 | — | — | — | — |
| | 3年生 | — | — | — | — |
| | 4年生 | — | — | — | — |
| | 計 | — | — | — | 50 |
| 定員 | | — | — | — | 40 |
| 定員充足率 | | — | — | — | 125% |
| 退学者数 | | — | — | — | — |
| 退学率 | | — | — | — | — |

| 学生数 | | H25. 5. 1 | H26. 5. 1 | H27. 4. 1 | H284. 1 |
|-------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|
| 学部計 | 1年生 | 224 | 224 | 224 | 349 |
| | 2年生 | 207 | 211 | 222 | 222 |
| | 3年生 | 207 | 201 | 204 | 212 |
| | 4年生 | 126 | 221 | 224 | 225 |
| | 計 | 764 | 857 | 874 | 1008 |
| 定員 | | 720 | 800 | 800 | 900 |
| 定員充足率 | | 106. 1% | 107. 1% | 109. 3% | 112% |
| 退学者数 | | 25 | 22 | 22 | — |
| 退学率 | | 3. 3% | 2. 5% | 2. 5% | — |

| 学生数 | | H25. 5. 1 | H26. 5. 1 | H27. 4. 1 | H284. 1 |
|-------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|
| 大学院 | 1年生 | 8 | 7 | 5 | 5 |
| | 2年生 | 1 | 8 | 7 | 5 |
| | 計 | 9 | 15 | 12 | 10 |
| 定員 | | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 定員充足率 | | 75. 0% | 125. 0% | 100% | 83. 3% |
| 退学者数 | | 0 | 0 | 0 | — |
| 退学率 | | 0. 0% | 0. 0% | 0. 0% | — |

| 学生数 | | H25. 5. 1 | H26. 5. 1 | H27. 4. 1 | H284. 1 |
|--------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|
| 助産学専攻科 | 1年生 | — | — | — | 10 |
| | 計 | — | — | — | 10 |
| 定員 | | — | — | — | 10 |
| 定員充足率 | | — | — | — | 100% |
| 退学者数 | | — | — | — | — |
| 退学率 | | — | — | — | — |

② 平成 28 年度入学試験受験者数

| H28 年度 看護学科 | 志願者数 | | | 受験者数 | | | 合格者 | | |
|-----------------|-------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-------------|------------|----------|------------|
| | 第 1 | 第 2・3 | 計 | 第 1 | 第 2・3 | 計 | 第 1 | 第 2・3 | 計 |
| AO I 期 | 86 | 6 | 92 | 86 | 6 | 92 | 9 | 0 | 9 |
| 公募推薦 前期 | 319 | 16 | 335 | 316 | 16 | 332 | 36 | 0 | 36 |
| 公募推薦 後期 | 150 | 4 | 154 | 139 | 3 | 142 | 14 | 0 | 14 |
| 一般 前期 A 日程 3 科目 | 108 | 5 | 113 | 106 | 5 | 111 | 27 | 0 | 27 |
| 一般 前期 A 日程 2 科目 | 166 | 4 | 170 | 164 | 4 | 168 | 35 | 0 | 35 |
| 一般 前期 B 日程 3 科目 | 72 | 6 | 78 | 70 | 6 | 76 | 16 | 0 | 16 |
| 一般 前期 B 日程 2 科目 | 115 | 5 | 120 | 112 | 5 | 117 | 21 | 0 | 21 |
| 一般 中期 | 133 | 12 | 145 | 122 | 12 | 134 | 5 | 0 | 5 |
| 一般 後期 | 87 | 9 | 96 | 85 | 9 | 94 | 5 | 0 | 5 |
| 社会人 I 期 | 4 | 0 | 4 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| 社会人 II 期 | 3 | 0 | 3 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 指定校推薦 | 5 | 0 | 5 | 5 | 0 | 5 | 5 | 0 | 5 |
| 学園内推薦 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 計 | 1250 | 67 | 1317 | 1214 | 66 | 1280 | 175 | 0 | 175 |

| H28 年度 理学療法学科 | 志願者数 | | | 受験者数 | | | 合格者 | | |
|------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|------------|
| | 第 1 | 第 2・3 | 計 | 第 1 | 第 2・3 | 計 | 第 1 | 第 2・3 | 計 |
| AO I 期 | 73 | 5 | 78 | 73 | 5 | 78 | 9 | 0 | 9 |
| AO II 期 | 50 | 4 | 54 | 50 | 4 | 54 | 2 | 0 | 2 |
| 公募推薦 前期 | 165 | 44 | 209 | 165 | 43 | 208 | 19 | 0 | 19 |
| 公募推薦 後期 | 70 | 17 | 87 | 67 | 14 | 81 | 9 | 0 | 9 |
| 一般 前期 A 日程 3 科目 | 32 | 11 | 43 | 31 | 11 | 42 | 6 | 0 | 6 |
| 一般 前期 A 日程 2 科目 | 53 | 6 | 59 | 52 | 6 | 58 | 10 | 0 | 10 |
| 一般 前期 B 日程 3 科目 | 29 | 15 | 44 | 29 | 15 | 44 | 5 | 0 | 5 |
| 一般 前期 B 日程 2 科目 | 60 | 7 | 67 | 59 | 7 | 66 | 11 | 0 | 11 |
| 一般 中期 | 55 | 23 | 78 | 52 | 20 | 72 | 8 | 0 | 8 |
| 一般 後期 | 27 | 25 | 52 | 27 | 24 | 51 | 5 | 0 | 5 |
| 社会人 I 期 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 社会人 II 期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定校推薦 | 19 | 0 | 19 | 19 | 0 | 19 | 19 | 0 | 19 |
| 計 | 634 | 158 | 792 | 625 | 150 | 775 | 103 | 0 | 103 |

| H28 年度 作業療法学科 | 志願者数 | | | 受験者数 | | | 合格者 | | |
|------------------|-----------|------------|------------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|
| | 第 1 | 第 2・3 | 計 | 第 1 | 第 2・3 | 計 | 第 1 | 第 2・3 | 計 |
| AO II 期 | 20 | 6 | 26 | 20 | 6 | 26 | 12 | 0 | 12 |
| 公募推薦 前期 | 24 | 39 | 63 | 23 | 39 | 62 | 13 | 10 | 23 |
| 公募推薦 中期 | 11 | 3 | 14 | 10 | 3 | 13 | 4 | 0 | 4 |
| 公募推薦 後期 | 2 | 20 | 22 | 2 | 16 | 18 | 1 | 9 | 10 |
| 一般 前期 A 日程 3 科目 | 5 | 11 | 16 | 5 | 11 | 16 | 4 | 3 | 7 |
| 一般 前期 A 日程 2 科目 | 7 | 10 | 17 | 7 | 10 | 17 | 5 | 2 | 7 |
| 一般 前期 B 日程 3 科目 | 1 | 20 | 21 | 1 | 20 | 21 | 1 | 4 | 5 |
| 一般 前期 B 日程 2 科目 | 4 | 11 | 15 | 4 | 11 | 15 | 4 | 4 | 8 |
| 一般 中期 | 2 | 31 | 33 | 1 | 27 | 28 | 0 | 8 | 8 |
| 一般 後期 | 0 | 17 | 17 | 0 | 16 | 16 | 0 | 5 | 5 |
| 社会人 I 期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 社会人 II 期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 76 | 168 | 244 | 73 | 159 | 232 | 44 | 45 | 89 |

| H28年度 臨床検査学科 | 志願者数 | | | 受験者数 | | | 合格者 | | |
|-----------------|------|------|-----|------|------|-----|-----|------|-----|
| | 第1 | 第2・3 | 計 | 第1 | 第2・3 | 計 | 第1 | 第2・3 | 計 |
| A0 II期 | 26 | 0 | 26 | 26 | 0 | 26 | 7 | 0 | 7 |
| 公募推薦 前期 | 44 | 23 | 67 | 44 | 22 | 66 | 16 | 3 | 19 |
| 公募推薦 中期 | 34 | 1 | 35 | 33 | 0 | 33 | 10 | 0 | 10 |
| 公募推薦 後期 | 24 | 14 | 38 | 22 | 13 | 35 | 8 | 2 | 10 |
| 一般 前期A日程 3科目 | 30 | 10 | 40 | 30 | 10 | 40 | 16 | 0 | 16 |
| 一般 前期A日程 2科目 | 46 | 6 | 52 | 45 | 6 | 51 | 22 | 0 | 22 |
| 一般 前期B日程 3科目 | 17 | 7 | 24 | 17 | 7 | 24 | 9 | 0 | 9 |
| 一般 前期B日程 2科目 | 27 | 3 | 30 | 26 | 3 | 29 | 11 | 0 | 11 |
| 一般 中期 | 40 | 23 | 63 | 36 | 22 | 58 | 12 | 0 | 12 |
| 一般 後期 | 27 | 17 | 44 | 27 | 16 | 43 | 5 | 0 | 5 |
| 社会人 I期 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 社会人 II期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 316 | 105 | 421 | 307 | 100 | 407 | 117 | 5 | 122 |

| H28年度 鍼灸学科 | 志願者数 | | | 受験者数 | | | 合格者 | | |
|---------------|------|------|-----|------|------|-----|-----|------|-----|
| | 第1 | 第2・3 | 計 | 第1 | 第2・3 | 計 | 第1 | 第2・3 | 計 |
| A0 I期 | 18 | 13 | 31 | 17 | 13 | 30 | 17 | 9 | 26 |
| A0 II期 | 7 | 6 | 13 | 7 | 6 | 13 | 6 | 3 | 9 |
| スポーツ A0 | 6 | 0 | 6 | 6 | 0 | 6 | 3 | 0 | 3 |
| 公募推薦 前期 | 5 | 38 | 43 | 5 | 38 | 43 | 4 | 18 | 22 |
| 公募推薦 中期 | 8 | 2 | 10 | 8 | 1 | 9 | 6 | 0 | 6 |
| 公募推薦 後期 | 2 | 16 | 18 | 2 | 15 | 17 | 0 | 7 | 7 |
| 一般 前期A日程 3科目 | 2 | 7 | 9 | 2 | 7 | 9 | 2 | 0 | 2 |
| 一般 前期A日程 2科目 | 4 | 6 | 10 | 4 | 6 | 10 | 4 | 0 | 4 |
| 一般 前期B日程 3科目 | 1 | 7 | 8 | 1 | 7 | 8 | 1 | 0 | 1 |
| 一般 前期B日程 2科目 | 1 | 5 | 6 | 1 | 5 | 6 | 1 | 0 | 1 |
| 一般 中期 | 0 | 20 | 20 | 0 | 18 | 18 | 0 | 6 | 6 |
| 一般 後期 | 4 | 14 | 18 | 4 | 14 | 18 | 4 | 1 | 5 |
| 社会人 I期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 社会人 II期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定校推薦 | 14 | 0 | 14 | 14 | 0 | 14 | 14 | 0 | 14 |
| 計 | 72 | 134 | 206 | 71 | 130 | 201 | 62 | 44 | 106 |

③ 平成28年度 大学院入学試験受験者数

| H28年度 大学院研究科 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者 | 入学者 |
|-----------------|------|------|-----|-----|
| 第1次募集 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 第2次募集 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 第3次募集 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 計 | 5 | 5 | 5 | 5 |

④ 平成 28 年度 助産学専攻科入学試験受験者数

| H28 年度 助産学専攻科 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者 | 入学者 |
|------------------|------|------|-----|-----|
| 一般入試Ⅰ | 5 | 5 | 3 | 2 |
| 社会人入試 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 学内推薦入試 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 一般入試Ⅱ | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 計 | 13 | 13 | 11 | 10 |

⑤ 国家試験合格率

はり師・きゅう師 国家試験

| 区 分 | | 平成 27 年度 (第 24 回) | | |
|---------|------|-------------------|-------|-------|
| | | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 新卒受験者 | はり師 | 49 | 45 | 91.8% |
| | きゅう師 | 49 | 47 | 95.9% |
| 本学のべ受験者 | はり師 | 62 | 48 | 77.4% |
| | きゅう師 | 60 | 48 | 80.0% |
| 全国平均 | はり師 | 4,775 | 3,504 | 73.4% |
| | きゅう師 | 4,732 | 3,550 | 75.0% |

理学療法士 国家試験

| 区 分 | | 平成 27 年度 (第 51 回) | | |
|----------|--|-------------------|-------|-------|
| | | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 新卒受験者 | | 56 | 45 | 80.4% |
| 本学のべ受験者数 | | 66 | 49 | 74.2% |
| 全国平均 | | 12,515 | 9,272 | 74.1% |

看護師 国家試験

| 区 分 | | 平成 27 年度 (第 105 回) | | |
|----------|--|--------------------|--------|-------|
| | | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 新卒受験者 | | 78 | 78 | 100% |
| 本学のべ受験者数 | | 80 | 80 | 100% |
| 全国平均 | | 62,154 | 55,585 | 89.4% |

保健師 国家試験

| 区 分 | | 平成 27 年度 (第 102 回) | | |
|-------|--|--------------------|-------|-------|
| | | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 新卒受験者 | | 11 | 11 | 100% |
| 全国平均 | | 8,799 | 7,901 | 89.8% |

⑥職種別求人件数

本学宛に送付されてきた求人職種別件数は以下のとおりである。はり師、きゅう師・理学療法士・看護師・保健師に加えて、助産師・作業療法士・臨床検査技師などの求人や、柔道整復師などのその他の医療従事者、大学生卒業者を対象とする事務職、営業・販売職など多彩な求人情報が本学に寄せられた。

| 職種 | 件数 |
|-----------|------|
| 理学療法士 | 717 |
| 看護師 | 430 |
| はり師・きゅう師 | 280 |
| 作業療法士 | 105 |
| 助産師 | 50 |
| 保健師 | 33 |
| 臨床検査技師 | 3 |
| その他の医療従事者 | 103 |
| 事務職 | 19 |
| 営業職 | 18 |
| 介護士 | 24 |
| その他 | 44 |
| サービス業 | 12 |
| 販売職 | 6 |
| 教員 | 3 |
| 総計 | 1847 |

<有効求人倍率について>

本学に寄せられた各学科への求人数を求職者数より算出した学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値 平成 27 年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均 1.73 倍（リクルートワークス社調べ）

| | 鍼灸学科 | 理学療法学科 | 看護学科 |
|----------|------|--------|------|
| 求人件数（件） | 280 | 717 | 430 |
| 求職者数（人数） | 38 | 46 | 72 |
| 求人倍率（倍） | 7.36 | 15.6 | 5.97 |

3. 森ノ宮医療学園専門学校

(1) 実施事業の概要

学園の第1期中期経営計画の到達目標は「関西圏の医療系専門学校の中でトップクラスになる」を掲げ、「私たちは、伝統医学を継承し技を極め、心ある臨床家を育てます」を専門学校のミッションに定めている。これらを達成するため、平成27年度については、以下の主要事業を展開した。

1) 教育事業

①カリキュラムの検討

鍼灸学科においては、近年の入学生の学力レベル低下を受け、国語科目の導入の検討を行うなど、教育カリキュラムの見直しを行った結果、次年度からカリキュラムの変更を実施することになった。また、柔道整復学科においては、柔整学科独自のミッションを策定し、このミッションに対応する教育カリキュラムの検討を重ね、大幅なカリキュラムの変更を行うこととなり、次年度から実施することになった。

②入学者・在学生へのフォローアップ充実

鍼灸学科においては、授業時間外に実施している既存の「とくゼミ」の継続と成績不良者に対する自学習の機会を設け、基礎医学科目の理解度を深めるための「フォローアップゼミ」を新たに開設したことにより、成績下位の学生数の減少が見られた。また、在校生の職業意識向上のため外部治療院と共同で実施してきた受療体験を継続すると共に入学試験合格者に対しても、本校入学までの間に鍼灸の受療体験をみどりの風鍼灸院と共同で実施した。さらに、新たな施策として、在校生卒業生向けに月1回のペースで森ノ宮鍼灸セミナー「臨活」を開催し、在校生・卒業生から好評であった。

柔整学科においては、国家試験対策の一環として、1年生の希望者を対象に基礎医学科目の理解度を深めるための「基礎ゼミ」を授業時間外に新たに開設した。また、2年生に対しては、ドリル課題を希望者に対して実施したことにより、参加者においては成績下位から成績中位への上昇が見られた。また、欠席者や成績不良者に対して、早期の連絡・面談を実施したことにより、学生が抱えている諸問題の早期対応が可能となった。

③国家試験対策

鍼灸学科は、3年生に対して国家試験対策ドリル課題の実施を継続し、国家試験が不合格となった卒業生に対して対策ゼミの実施も継続した。はり師・きゅう師国家試験については、難易度が昨年より上がったため、合格率は若干下がったものの、大幅な落ち込みを防ぐことができた。また、既卒者の対策ゼミ参加者の国家試験合格者は昨年度より改善が認められた。

柔道整復学科については、昨年度の国家試験合格率の低迷を受け、三科目模試を早い時期から実施した。また、新たな施策として、授業時間外に「必須対策ゼミ」を卒業試験前に開設し、国家試験直前に「集中ゼミ」を開設した。さらに、3年生に対して卒業生の協力により、ティーチングアシスタント制度(TA制度)を導入し、フォローアップに努めた結果、国家試験合格率については、昨年より若干ではあるが改善が認められた。

2) 事務関係事業

専門学校の組織改編に伴い、各部署での業務手順書等の整備に着手し、業務改善に向け各部署での取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

①学務課

教務システムの試験導入を行い、学籍管理および成績管理の簡略化に努めた。

②総務課

有休等の申請を紙ベースから Web ブラウザーを利用したワークフローシステムを導入し、届出の承認が円滑にでき、紙使用量削減につながった。また、消耗品についても、購入の管理体制を強化したことで、経費削減ができた。

③管理課

在校生満足度向上をめざし、校内美化向上を図るため建物管理委託業者を変更し、女子トイレの改善に着手した。また、校舎経年劣化に対しては、空調機入替計画の検討や改修計画について策定し、実施は次年度以降とした。

④経理課

給与計算等についてアウトソーシング化を進め、業務の簡略化に努めた。また、学納金の振込口座を選択可能にしたことにより、期日までの入金率は以前に比べ改善された。

⑤広報課

募集力アップのため、ホームページのリニューアルを行った。また、高校ガイダンスの参画、出張講座の実施、オープンキャンパスの運営については例年通りとした。

新たな試みとして、認知度向上を目的に春と秋にテレビ大阪主催のファミリーマラソンへの協賛と当日の運営に参画し、在校生がケアをマラソン参加者に対して行い好評を博した。

3) 募集事業

近年の少子高齢化や就職率の改善等により、学生募集については、依然厳しい状態である。平成 27 年度は、広報課を中心に本校の認知度向上が急務であると判断し、前記ファミリーマラソンへの協賛等を行った。一方、夜間部の募集状況が著しく低下しており、夜間部の募集力アップのためプロジェクトチームを結成し、検討を重ねた結果次年度以降の施策に反映することとなった。また、国家試験合格率についても、さらなる向上が必要であり、教育についても改革を行っている状況ではあるが、単年度での状況改善は難しく、入学者数は前年度に比べ低い水準にとどまってしまった。

(2) 事業成果の概要

① 在籍学生数

(単位：人)

| 平成 28 年 4 月 1 日現在 | 1 年 | | | 2 年 | | | 3 年 | | | 合計 | | | |
|----------------------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|---|
| | 在籍 | (留年) | (休学) | 在籍 | (留年) | (休学) | 在籍 | (留年) | (休学) | 在籍 | (留年) | (休学) | |
| 鍼灸学科 | 昼 | 71 | 3 | 0 | 80 | 5 | 1 | 65 | 6 | 0 | 216 | 14 | 1 |
| | 夜 | 14 | 1 | 0 | 21 | 4 | 1 | 25 | 6 | 0 | 60 | 11 | 1 |
| 柔道整復 学科 | 昼 | 78 | 2 | 0 | 74 | 4 | 0 | 67 | 8 | 1 | 219 | 14 | 1 |
| | 夜 | 8 | 0 | 0 | 21 | 2 | 2 | 21 | 6 | 0 | 50 | 8 | 2 |
| 合計 | 171 | 6 | 0 | 196 | 15 | 4 | 178 | 26 | 1 | 545 | 47 | 5 | |

*留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

| 平成 27 年 4 月 1 日現在 | 1 年 | | | 2 年 | | | 3 年 | | | 合計 | | | |
|----------------------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|---|
| | 在籍 | (留年) | (休学) | 在籍 | (留年) | (休学) | 在籍 | (留年) | (休学) | 在籍 | (留年) | (休学) | |
| 鍼灸学科 | 昼 | 86 | 3 | 1 | 65 | 4 | 1 | 98 | 13 | 0 | 249 | 20 | 2 |
| | 夜 | 24 | 2 | 1 | 29 | 2 | 2 | 41 | 8 | 1 | 94 | 12 | 4 |
| 柔道整復 学科 | 昼 | 85 | 4 | 0 | 72 | 5 | 2 | 72 | 5 | 1 | 229 | 14 | 3 |
| | 夜 | 20 | 0 | 0 | 20 | 4 | 3 | 44 | 9 | 0 | 84 | 13 | 3 |
| 合計 | 215 | 9 | 2 | 186 | 15 | 8 | 255 | 35 | 2 | 656 | 59 | 12 | |

*留年および休学は在籍者数の内数

(単位：名)

| 平成 26 年 4 月 1 日現在 | | 1 年 | | | 2 年 | | | 3 年 | | | 合計 | | |
|----------------------|---|-----|----------|----------|-----|----------|----------|-----|----------|----------|-----|----------|----------|
| | | 在籍 | (留 年) | (休 学) | 在籍 | (留 年) | (休 学) | 在籍 | (留 年) | (休 学) | 在籍 | (留 年) | (休 学) |
| 鍼灸学科 | 昼 | 70 | 0 | 0 | 94 | 6 | 2 | 118 | 10 | 1 | 282 | 16 | 3 |
| | 夜 | 32 | 2 | 1 | 36 | 2 | 0 | 43 | 6 | 1 | 111 | 10 | 2 |
| 柔道整復 学科 | 昼 | 79 | 4 | 0 | 82 | 8 | 2 | 85 | 10 | 0 | 246 | 22 | 2 |
| | 夜 | 15 | 0 | 0 | 47 | 6 | 2 | 66 | 11 | 0 | 128 | 17 | 2 |
| 合計 | | 196 | 6 | 1 | 259 | 22 | 6 | 312 | 37 | 2 | 767 | 65 | 9 |

* 留年および休学は在籍者数の内数

②年度別退学者数

(単位：人)

| 年度 | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 |
|-------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 退学者数 | 42 | 50 | 47 | 42 | 51 |
| 退学者比率 | 4.7% | 5.4% | 5.3% | 5.8% | 7.8% |
| 在学生数 | 898 | 932 | 879 | 725 | 656 |

③志願者数の推移

(単位：人)

| 入学年度 | | | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 |
|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 学科 | 部 | 定員 | 志願者 | 志願者 | 志願者 | 志願者 | 志願者 | 志願者 | 志願者 | 志願者 | 志願者 | 志願者 |
| 鍼灸 | 午前 | 30 | — | — | — | — | 64 | 74 | 62 | 39 | 45 | 50 |
| | ア(医療) | 30 | 33 | 31 | 35 | 33 | 13 | 19 | 11 | 5 | 13 | 4 |
| | 昼 | 60 | 106 | 112 | 101 | 89 | 53 | 51 | 41 | 33 | 21 | 27 |
| | 夜 | 90 | 49 | 52 | 69 | 39 | 53 | 52 | 44 | 33 | 21 | 16 |
| | 未定 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 19 | 0 |
| 柔整 | ア | 30 | 31 | 23 | 22 | 22 | 30 | 44 | 43 | 28 | 34 | 25 |
| | 昼 | 60 | 143 | 115 | 96 | 90 | 87 | 96 | 69 | 58 | 52 | 54 |
| | 夜 | 90 | 71 | 54 | 57 | 54 | 68 | 69 | 60 | 25 | 22 | 9 |
| | 未定 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 6 | 0 |
| 合計 | | 533 | 433 | 387 | 380 | 327 | 368 | 405 | 330 | 221 | 233 | 185 |

※ア…アドバンスコース、ア(医療)…アドバンスコースもしくは医療資格者コース

④国家試験合格率の推移

<平成 27 年度>

はり師きゅう師 国家試験（第 4 1 期）

| 家試験成績 | | 平成 2 7 年度（第 2 4 回） 2 8 年 2 月実施 | | |
|---------|------|--------------------------------|------|-------|
| | | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 現役受験者 | はり師 | 113 | 96 | 85.0% |
| | きゅう師 | 113 | 97 | 85.8% |
| 当校のべ受験者 | はり師 | 162 | 103 | 63.6% |
| | きゅう師 | 162 | 104 | 64.6% |
| 全国平均 | はり師 | 4976 | 3307 | 74.1% |
| | きゅう師 | 4893 | 3345 | 75.6% |

柔道整復師国家試験（第 1 4 期）

| 試験成績 | | 平成 2 7 年度（第 2 4 回） 2 8 年 3 月実施 | | |
|---------|-------|--------------------------------|------|-------|
| | | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 現役受験者 | 柔道整復師 | 98 | 83 | 74.5% |
| 全国現役受験者 | 柔道整復師 | 4979 | 4273 | 82.3% |
| 当校のべ受験者 | 柔道整復師 | 185 | 90 | 51.4% |
| 全国のべ平均 | 柔道整復師 | 7115 | 4503 | 64.4% |

<平成 26 年度>

はり師きゅう師 国家試験（第 4 0 期）

| 家試験成績 | | 平成 2 6 年度（第 2 3 回） 2 7 年 2 月実施 | | |
|---------|------|--------------------------------|------|-------|
| | | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 現役受験者 | はり師 | 132 | 119 | 90.2% |
| | きゅう師 | 132 | 120 | 90.9% |
| 当校のべ受験者 | はり師 | 176 | 129 | 73.2% |
| | きゅう師 | 175 | 129 | 73.7% |
| 全国平均 | はり師 | 4976 | 3808 | 76.5% |
| | きゅう師 | 4893 | 3773 | 77.1% |

柔道整復師国家試験（第 1 3 期）

| 試験成績 | | 平成 2 6 年度（第 2 3 回） 2 7 年 3 月実施 | | |
|---------|-------|--------------------------------|------|-------|
| | | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 現役受験者 | 柔道整復師 | 126 | 83 | 65.9% |
| 全国現役受験者 | 柔道整復師 | 5289 | 4273 | 80.8% |
| 当校のべ受験者 | 柔道整復師 | 182 | 90 | 45.9% |
| 全国のべ平均 | 柔道整復師 | 6858 | 4503 | 65.7% |

⑤ 就職状況

●本校に対する求人倍率

| | | |
|------------|---------|-------------|
| 本校の職業紹介利用者 | 本校の求人倍率 | 全国の求人倍率（参考） |
| 103人 | 23.3倍 | 1.23倍 |

●初任給平均額

《正社員》

| | 月給平均（円） | 最高額（円） | 最低額（円） | 求人数（件） |
|-------|---------|---------|--------|--------|
| 鍼灸師 | 190,596 | 300,000 | 80,000 | 784 |
| 柔道整復師 | 198,593 | 300,000 | 80,000 | 899 |
| 学生 | 154,021 | 220,000 | 61,920 | 483 |

《アルバイト》

| | 時給平均（円） | 最高額（円） | 最低額（円） | 求人数（件） |
|-------|---------|--------|--------|--------|
| 鍼灸師 | 982 | 1,500 | 750 | 300 |
| 柔道整復師 | 1015 | 2,000 | 790 | 350 |
| 学生 | 884 | 1,600 | 724 | 368 |

4. 森ノ宮医療学園附属診療所

4-1. みどりの風鍼灸院

(1) 人員

平成 27 年度は常勤 5 人、非常勤（教務）3 人の体制で対応した。

(2) 鍼灸院業務日数

| | |
|-------------------|-----------------|
| ①診療日数 | 239 日 |
| ②休診日 | |
| a) 土曜・日曜・祝日 | 120 日 |
| b) 夏期休診日 | 3 日 (8/12～8/14) |
| c) 年末年始休診日 | 6 日 (12/29～1/3) |
| d) 日本東洋医学会：富山県大会 | 1 日 (6/12) |
| e) みどりの風鍼灸院：開院記念日 | 1 日 (3/2) |

(3) 鍼灸院行事

- ①全日本鍼灸学会 ふくしま大会(福島県)：3日間(平成27年5月22日～24日)
- ②日本東洋医学会：富山県大会：3日間(平成27年6月12日～14日)
- ③日本臨床鍼灸懇話会全国集会(大阪大会)：2日間(10月17日、18日)
- ④みどりの風鍼灸院「東洋医学基礎ゼミ」(専門学校2・3年対象：10～11月)
- ⑤毎月第1月曜日：クリニック・鍼灸院合同定例会議(AM 8:00～)

(4) 鍼灸院学術活動

①学会発表・活動

- a) 第64回全日本鍼灸学会第学術大会(福島県)(平成27年5月22～22日)
ポスター発表「小細胞肺癌に対する鍼灸治療の1症例」：中島 茂
- b) 日本東洋医学会：富山県大会：3日間(平成27年6月12日～14日)
ポスター発表「顔面神経麻痺に対する漢方と鍼灸の併用治療の1症例」：菊谷敏士
- c) 日本臨床鍼灸懇話会全国集会(大阪大会)：2日間(10月17日、18日)
臨床討論：座長「咳に伴う頭痛を訴えた1症例」：中島 茂

②基礎ゼミ

「東洋医学基礎ゼミ」(専門学校2・3年対象：10～11月/金曜日)：菊谷敏士

(5) 鍼灸院診療時間 (平成27年4月1日から実施)

| 受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------------|------------|---|---|---|---|---|
| 午前診 9:00～11:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| 午後診 1:30～4:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| 夜間診 4:30～7:30 | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × |
| 休診日 | 土曜日、日曜日、祝日 | | | | | |

平成27年度4月1日からみどりの風クリニックの診療時間帯と休診日の変更に伴い、みどりの風鍼灸院も施術時間帯と休診日を同様に変更したが特に問題なく施術は行われた。

(6) 鍼灸学科臨床実習について

①鍼灸学科臨床実習プログラムの進行

従来通りに「各学生の技能に併せた参加・ステップアップ方式」を実施。

②実習参加時間帯

- ・昼間・医療資格コース（1～3年）：午前診
- ・夜間コース（1～3年）：午後診
- ・午前コース（1年）：午後診
- ・午前コース（2年）：午後診
- ・午前コース（3年）：午後診と夜診のスクランブル

③臨床実習の向上について

鍼灸学科学生の鍼灸実技・臨床能力、臨床実習内容のスキルアップを図る

a) 1回/月：鍼灸院院長と鍼灸学科長の定例ミーティングを実施。

b) 初めての試みとして臨床実習と鍼灸実技授業のリンクと技術向上を狙って、鍼灸学

科前期の1年生実技試験(7月7日の午前、医昼、夜の全コース)において鍼灸院スタッフ2名が血圧測定の評価を行った。(血圧測定は1年次の臨床実習プログラムである)

鍼灸院における血圧測定バリエーションについては1/6の学生がテストを受けているが例年よりも順調に合格している手応えがあった。

(7) 卒後研修制度実施について

平成27年4月から2名の卒業生(平成27年3月卒業)を受け入れ1年間(最長2年間まで)の卒後臨床研修を開始した。研修生は合計4名(①と②については2名の鍼灸師が重複している)で、1名は今年度で1年間の研修期間の最終年を迎え無事に終了した。(卒後研修終了証書を授与)他3名のうち2名がリタイア。1名は2年目を迎える。

(8) 入学前の鍼灸治療体験の導入

鍼灸学科内定者の内12名、内定者の家族4名の計16名が鍼灸治療体験をした。

(9) 患者数の増加ため森ノ宮医療学園在学学生患者の獲得

患者数の増加のための具体的な方策の一つとして森ノ宮医療学園の学生患者の増加を図った。平成26年4月より学生患者獲得のために施術料金を一部変更した。また、より多くの学生が患者として鍼灸治療を経験することで鍼灸臨床の向上と臨床実習の充実につながっていると考える。

- ・臨床実習に協力して頂ける学生患者の施術料金・・・500円
- ・上記以外の学生施術料金は現行通り・・・2,000円

平成26年度と平成27年度の学生患者数比(：人)

| | 平成26年 | 平成27年 |
|-----|-------|-------|
| 4月 | 29 | 109 |
| 5月 | 44 | 99 |
| 6月 | 77 | 154 |
| 7月 | 79 | 158 |
| 8月 | 59 | 115 |
| 9月 | 90 | 154 |
| 10月 | 118 | 168 |
| 11月 | 90 | 157 |
| 12月 | 113 | 138 |
| 1月 | 106 | 122 |
| 2月 | 84 | 146 |
| 3月 | 79 | 107 |
| 計 | 968 | 1627 |

平成26年度は968人、平成27年度は1627人と659人増加している。

平成28年度も現行の施術料金設定で行うことにすることで臨床実習の充実は勿論、学生の体調管理に貢献できると考える。

- (10) 患者数の増加ため森ノ宮医療学園卒業生患者の獲得対策（平成 27 年度新規実施）
 学生患者が卒業後もリピーターとなるように卒業生の施術料金改定を実施した。
 平成 27 年 4 月より卒業生患者の施術料金を一部改訂した。
- ・臨床実習に協力して頂ける卒業生患者の施術料金・・・1,500 円
 - ・上記以外の卒業生施術料金は現行通り・・・3,300 円

平成 26 年度と平成 27 年度の卒業生患者数比（：人）

| | 平成26年 | 平成27年 |
|-----|-------|-------|
| 4月 | 13 | 14 |
| 5月 | 10 | 19 |
| 6月 | 10 | 23 |
| 7月 | 15 | 23 |
| 8月 | 13 | 20 |
| 9月 | 12 | 23 |
| 10月 | 12 | 20 |
| 11月 | 7 | 25 |
| 12月 | 7 | 23 |
| 1月 | 7 | 21 |
| 2月 | 7 | 26 |
| 3月 | 9 | 21 |
| 計 | 122 | 258 |

平成 26 年度は 122 人、平成 27 年度は 258 人と 136 人増加している。
 在学生患者が増加しているなか卒業後も継続して治療を受けやすく施術料金の設定は現状にして、徐々ではあるが増患を期待する。

- (11) 患者数の増加、臨床実習内容の充実のため鍼灸学科教務教員の施術シフトへの参加
 平成 27 年度の鍼灸院施術時間帯と休診日の変更にともない現在の鍼灸院スタッフに加え、
 患者数の増加、教務教員の臨床能力の向上、臨床実習生における実技指導ために 2
 名が積極的に鍼灸院施術シフトに参加して頂いている。
 鍼灸学科教務から 2 名増員（西田隆：月曜日午後診、由良拓巳：木曜日午後診）2 名の増
 員によって、臨床実習の指導の向上、学生患者の増患につながったと考える。

- (12) 平成 26 年度と平成 27 年度患者動向について

単位：人

| | 平成26年 | | | | 平成27年度 | | | |
|-----|-----------|------|------|-------|-----------|------|------|-------|
| | 全体患者(新患) | 一般患者 | 学生患者 | 卒業生患者 | 全体患者(新患) | 一般患者 | 学生患者 | 卒業生患者 |
| 4月 | 368(14) | 326 | 29 | 13 | 444(22) | 321 | 109 | 14 |
| 5月 | 349(25) | 295 | 44 | 10 | 416(15) | 298 | 99 | 19 |
| 6月 | 388(19) | 301 | 77 | 10 | 497(22) | 320 | 154 | 23 |
| 7月 | 440(17) | 346 | 79 | 15 | 542(18) | 361 | 158 | 23 |
| 8月 | 364(13) | 292 | 59 | 13 | 397(6) | 262 | 115 | 20 |
| 9月 | 433(17) | 331 | 90 | 12 | 453(14) | 276 | 154 | 23 |
| 小計 | 2342(105) | 1891 | 378 | 73 | 2749(97) | 1838 | 789 | 122 |
| 10月 | 471(19) | 341 | 118 | 12 | 484(18) | 296 | 168 | 20 |
| 11月 | 364(11) | 267 | 90 | 7 | 466(11) | 284 | 157 | 25 |
| 12月 | 422(16) | 302 | 113 | 7 | 442(13) | 281 | 138 | 23 |
| 1月 | 407(8) | 294 | 106 | 7 | 420(7) | 277 | 122 | 21 |
| 2月 | 400(8) | 309 | 84 | 7 | 452(8) | 280 | 146 | 26 |
| 3月 | 422(19) | 334 | 79 | 9 | 424(24) | 296 | 107 | 21 |
| 小計 | 2486(81) | 1847 | 590 | 49 | 2688(81) | 1714 | 838 | 136 |
| 計 | 4828(186) | 3738 | 968 | 122 | 5437(178) | 3552 | 1627 | 258 |
| | | | | 前年度比 | 609(▲8) | ▲186 | 659 | 136 |

- ・平成 27 年度年間患者総患者数は 5437 人（月平均約 453 人）となる。前年、平成 26 年の 4828 人と比べて 609 人増（月平均約 51 人増）。前年比約 12.6%増と患者数は増加した。

- 平成 27 年度年間一般患者総数は 3552 人（月平均約 296 人）となる。前年平成 26 年の 3,738 人と比べて 186 人減（月平均約 15.5 人減）と一般患者数は減少した。
- 平成 27 年度年間学生患者総数予測は 1627 人（月平均約 135.6 人）となる。前年平成 26 年の 968 人と比べて 695 人増（月平均約 57.9 人増）と学生患者数は増加した。
- 平成 27 年度年間卒業生患者総数は 258 人（月平均約 21.5 人）となる。前年平成 26 年の 122 人と比べて 136 人増（月平均約 11.3 人増）と学生患者数は増加した。
- 平成 27 年度年間新患数は 178 人（月平均約 14.8 人）となる。前年平成 26 年の 186 人と比べて 8 人減（月平均約 0.67 人減）と新患数は減少した。

(13) 平成 27 年度の患者数と施術収入動向と平成 25 年度と平成 26 年度比について

| | 平成25年度 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | |
|-----|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| | 患者数(新患):人 | 施術収入 | 患者数(新患):人 | 施術収入 | 患者数(新患):人 | 施術収入 |
| 4月 | 333(7) | ¥1,019,000 | 368(14) | ¥1,075,100 | 444(22) | ¥1,159,100 |
| 5月 | 394(13) | ¥1,211,400 | 349(25) | ¥1,047,600 | 416(15) | ¥1,080,500 |
| 6月 | 347(14) | ¥1,072,400 | 388(19) | ¥1,089,600 | 497(22) | ¥1,336,960 |
| 7月 | 391(9) | ¥1,203,700 | 440(17) | ¥1,274,200 | 542(18) | ¥1,331,700 |
| 8月 | 341(6) | ¥1,032,800 | 364(13) | ¥1,045,400 | 397(6) | ¥994,300 |
| 9月 | 331(9) | ¥1,009,600 | 433(17) | ¥1,181,800 | 453(14) | ¥1,102,400 |
| 小計 | 2137(58) | ¥6,548,900 | 2342(105) | ¥6,713,700 | 2749(97) | ¥7,004,960 |
| 10月 | 391(8) | ¥1,159,200 | 471(19) | ¥1,306,300 | 484(18) | ¥1,170,000 |
| 11月 | 359(8) | ¥1,116,100 | 364(11) | ¥994,500 | 466(11) | ¥919,700 |
| 12月 | 337(9) | ¥1,069,100 | 422(16) | ¥1,089,000 | 442(13) | ¥1,113,100 |
| 1月 | 308(9) | ¥986,400 | 407(8) | ¥1,064,800 | 420(7) | ¥871,200 |
| 2月 | 303(5) | ¥939,700 | 400(8) | ¥950,500 | 452(8) | ¥904,600 |
| 3月 | 309(9) | ¥957,700 | 422(19) | ¥1,235,200 | 424(24) | ¥930,200 |
| 小計 | 2005(51) | ¥6,228,200 | 2486(81) | ¥6,640,300 | 2688(81) | ¥5,908,800 |
| 合計 | 4142(109) | ¥12,777,100 | 4828(186) | ¥13,354,000 | 5437(178) | ¥12,913,760 |

平成 27 年度鍼灸施術現金収入は、12,913,760 円。平成 26 年度の 13,354,000 円と比べて 440,240 円減（前年比約 3.4%減）と鍼灸施術現金収入は減少した。

※毎年継続されていた学生患者 1 人に対して ¥1,300 円の校友会の補助金が平成 27 年 11 月から打ち切りとなった。11 月から 3 月までの学生患者数 670 人に対して、¥871,000 円の収入が減額となった。本来なら、平成 27 年度施術収入は、¥13,784,760 円となり、前年度比は ¥430,760 円増となっていた。

(14) 平成 23 年度からの患者数・収入動向と平成 27 年度の患者数と施術収入動向について

| | 総患者数:人 | 内一般患者数:人 | 内学生患者数:人 | 卒業生患者:人 | 施術収入:円 |
|--------|--------|----------|----------|-----------|-------------|
| 平成23年度 | 3836 | 3470 | 366 | (一般患者に含む) | ¥12,230,000 |
| 平成24年度 | 3908 | 3498 | 410 | (一般患者に含む) | ¥12,400,000 |
| 平成25年度 | 4142 | 3952 | 190 | (一般患者に含む) | ¥12,777,100 |
| 平成26年度 | 4828 | 3738 | 968 | 122 | ¥13,354,000 |
| 平成27年度 | 5437 | 3552 | 1627 | 258 | ¥12,913,760 |

※平成 22 年 1 月 6 日：専門学校 1F から緑橋に移転、みどりの風鍼灸開院

平成 23 年度から総患者数は増加しているが、平成 26 年度から一般患者は減少している。

毎週来院していたリピーター高齢者が多数ドロップアウト（子供の家に転居、老人施設に入居

など）したことが原因と考える。

4-2. みどりの風クリニック

1. 活動実績

1) みどりの風クリニック診療時間とその変更について

平成 27 年 4 月 1 日より診療時間を下記の通り変更し、診療業務を実施している。

<整形外科>

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------|---|---|---|-------------|---|---|
| 9:00～12:00 | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 13:30～16:00 | × | × | × | 予約制 (再診) | × | × |
| 16:30～19:30 | ● | ● | × | ● | ● | × |

<内科・漢方内科・心療内科>

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 9:00～12:00 | ● | ● | ● | ● | ● | × |
| 13:30～16:00 | ● | ● | ● | ● | ● | × |
| 16:30～19:30 | × | × | × | × | × | × |

2) 森ノ宮医療学園の学生臨床実習実施状況

下記の通り、各学生臨床実習を実施した。

<森ノ宮医療大学>

- 鍼灸学科 学外見学実習

平成 27 年 4 月 16 日～平成 27 年 6 月 11 日

学生 16 名受入

<森ノ宮医療学園専門学校>

- 柔道整復学科 臨床実習

平成 27 年 4 月 1 日～8 月 21 日まで

対象：柔道整復学科 2 年昼間部・夜間部、3 年昼間部・夜間部の全学生
学生計 141 名受入

リハビリテーション科での臨床実習のみならず、他の医療職との連携を学ぶため、整形外科の診察見学、放射線科の見学、医事課の見学も行った。

- 鍼灸学科 内科診察見学実習

平成 27 年 11 月 5 日～平成 28 年 1 月 7 日まで

学生 8 名受入

3) 森ノ宮医療学園専門学校卒業後研修要項の取りまとめ

下記の通り、卒業後研修要項を取りまとめた。研修生を次年度より受け入れる。

<卒業後臨床研修の趣旨>

卒業後臨床研修は、柔道整復師が医療人としての人格と医療の果たすべき役割を認識して取り扱う外傷疾患に対して適切に対応し、後療法を行なえるよう臨床の現場で基礎から実践的な柔道整復学を学び柔道整復師としての必要な知識や能力を身に付けることを目的としている。

<対象>

柔道整復師

<人数>

若干名

<研修施設>

森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック

<主な特徴>

- ・多様性と柔軟性を持った卒後研修制度
- ・医療機関との連携の必要性を学べる
- ・柔道整復師本来の業務である骨折、脱臼の整復を学べるなど

<研修内容>

- ・リハビリ室での見学
- ・運動器リハビリテーション、骨折、脱臼、捻挫、靭帯損傷等外傷のギブス固定、シーネ固定、テーピング固定、徒手整復を主とした研修。

<研修期間>

週決められた日数を3ヵ月、6ヵ月、1年間のコースを選択して行う。

<卒後臨床研修コース概要>

見学研修を3ヶ月とし、本校柔道整復科卒業生で6ヶ月コース、1年コースを選択したものは3ヶ月の研修後実際に患者さんを治療する臨床研修に移行していく。

外部コース（他校卒業生）は見学実習のみを予定している。

4) 外部実習生の研修受入状況

下記の通り、各部門において外部実習生の研修を行った。

<内科部門>

担当医が漢方専門医であることから、当クリニックが「日本東洋医学会指定研修施設」となっている為、漢方専門医を目指す方々を以下の通り研修生として長期で6ヶ月、短期で3ヶ月を目処に受け入れて継続している。

月曜：午後診1名、火曜：午前診1名・午後診1名

水曜：午前診1名、木曜：午後診1名、金曜：午後診1名

<整形部門>

平成27年8月よりAT長島治療院より、施術スタッフ12名の技能及び資質向上を目的として、毎週月曜日の夜診帯に2名ずつ交代で1年間の見学研修を受け入れている。

5) 健康診断等の実施状況

下記の通り、当クリニックにおいて森ノ宮医療学園専門学校の実施基準による学生健診、また、厚生労働省で定められている教職員の健康診断等を法人からの依頼により実施した。

①学生健診の受入

- ・実施日時：平成27年4月15日
- ・実施人数：専門学校学生612名

②教職員健診の受入

- ・実施日時：平成27年10月5日～11月6日（延長11月20日まで）
- ・実施人数：大学121名、専門学校49名、診療所17名

③インフルエンザ予防接種実施

- ・実施期間：平成27年11月2日～平成28年1月31日まで
- ・実施人数：186名（一般患者、学生及び教職員）

6) トレーナー活動との連携強化

現在、当クリニックでは、宮崎医師と親交のある今福トレーナー（当学園鍼灸学科卒業生）、所トレーナー、藤井トレーナー、富田トレーナー（当学園鍼灸学科卒業生）を通じ、下記、当該チームのメディカルチェックを含め医療面のサポート体制の保持に努めている。

- ① 社会人野球 日本新薬(株) 硬式野球部
- ② 社会人野球 日本生命 硬式野球部
- ③ 近畿大学 硬式野球部

④ 近畿学附属高校 硬式野球部

⑤堺ブレイザーズ (Vリーグ)

その他、専門学校教員の関与する各種スポーツ部門のチームからの依頼に対しては、臨機に対処するように努めている。

尚、参考ではあるが、当クリニックリハビリ科員の理学療法士池上は、滝川第二高校硬式野球部コーチに就任している。

7) 医療スタッフの学術活動状況

①学術発表

- ・第 66 回 日本東洋医学会学術総会

「実践漢方セミナー」

発表者：新谷医師 (平成 27 年 6 月 12～14 日)

- ・第 7 回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学科 (JOSKS)

「遺残した内側上顆の骨片が投球時内側部痛に与える影響について」

発表者：宮崎医師 (平成 27 年 6 月 18～20 日)

②学術参加状況

- ・第 112 回 日本内科学会講演会 (平成 27 年 4 月 10～12 日)

- ・第 29 回 日本医学会総会 (平成 27 年 4 月 11～13 日)

- ・第 10 回 日本肩関節理学療法研究会 (平成 27 年 6 月 13～14 日)

・平成 27 年度 畿央大学運動器リハビリテーションセミナー (平成 27 年 8 月 2 日)

- ・第 32 回 和漢医薬学会学術大会 (平成 27 年 8 月 22～23 日)

- ・全国病院理学療法協会大阪支部研修会 (平成 27 年 9 月 27 日)

- ・クレドメディカル第 2 回接遇フェスタ (平成 27 年 11 月 1 日)

- ・第 57 回 日本消化器病学会大会 (平成 27 年 10 月 8～11 日)

- ・第 35 回 近畿理学療法記念学会 (平成 27 年 11 月 14～15 日)

- ・第 24 回 日本柔道整復接骨医学会学術大会 (平成 27 年 11 月 6～8 日)

- ・第 31 回 日本診療放射線技師学術大会 (平成 27 年 11 月 21～23 日)

③加入団体

- ・日本医師会

- ・大阪府医師会

- ・東成医師会

- ・日本診療放射線技師会

- ・大阪府放射線技師会

- ・日本東洋医学会

- ・全国病院理学療法協会

- ・日本柔道整復接骨医学会

- ・日本理学療法協会

- ・富山大学和漢診療学講座同門会

- ・日本消化器関連学会

- ・日本看護協会

- ・大阪府看護協会

- ・日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学科 (JOSKS)

- ・日本整形外科学会

- ・日本肩関節学会

2. 保険診療状況

1) 患者動向実績

平成27年度の患者動向について、診療日数は前年度対比で6日少なかったが、初診、再診、延患者数すべて前年度を上回る結果となった。特に整形外科の患者数は約4,000名増加（前年度比119%）となった。

年間対比 単位:円

| 月 | 日数 | 全体 | | | 内科 | | | 整形 | | |
|--------|-----|--------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|
| | | 患者数 | 初診 | 再診 | 患者数 | 初診 | 再診 | 患者数 | 初診 | 再診 |
| 平成27年度 | 238 | 33,306 | 3,831 | 29,475 | 7,854 | 1,096 | 6,758 | 25,452 | 2,735 | 22,717 |
| 平成26年度 | 244 | 28,894 | 3,641 | 25,253 | 7,515 | 971 | 6,544 | 21,379 | 2,670 | 18,709 |
| 比較差 | ▲6 | 4,412 | 190 | 4,222 | 339 | 125 | 214 | 4,073 | 65 | 4,008 |

2) 保険診療実績

患者数増加による影響から、平均単価の減少はあったものの内科・整形両部門において前年度を上回る保険請求となった。特に整形外科の保険請求額は約950万円増（前年度比109%）となった。

年間対比 単位:円

| 日数 | 全体 | | | 内科 | | | 整形 | | | |
|--------|-----|--------|-------------|-------|-------|------------|-------|--------|-------------|-------|
| | 患者数 | 請求金額 | 平均単価 | 患者数 | 請求金額 | 平均単価 | 患者数 | 請求金額 | 平均単価 | |
| 平成27年度 | 238 | 33,306 | 156,303,350 | 4,693 | 7,854 | 41,368,440 | 5,267 | 25,452 | 114,934,910 | 4,516 |
| 平成26年度 | 244 | 28,894 | 146,451,200 | 5,069 | 7,515 | 41,048,490 | 5,462 | 21,379 | 105,402,710 | 4,930 |
| 比較差 | ▲6 | 4,412 | 9,852,150 | ▲376 | 339 | 319,950 | ▲195 | 4,073 | 9,532,200 | ▲414 |

※平均単価は端数を四捨五入

3. 収支状況

1) 収支状況（前年度比較）

上記保険請求額等の増加により医業収益が約1,000万円の増加（前年度比106%）となったが、人件費等の増加によって相殺された。最終利益は約120万円増の結果となった。

単位:円

| | 平成26年度 | 平成27年度 | 比較差 | 備考 |
|-------|-------------|-------------|------------|---------------|
| 医業収益 | 158,700,199 | 168,684,557 | 9,984,358 | |
| 医業材料費 | 15,847,702 | 14,577,852 | ▲1,269,850 | 医薬品の減少約100万円 |
| 売上総利益 | 142,852,497 | 154,106,705 | 11,254,208 | |
| 医業費用 | 123,694,045 | 134,078,659 | 10,384,614 | 人件費の増加約1000万円 |
| 営業利益 | 19,158,452 | 20,028,046 | 869,594 | |
| 医業外収益 | 881,691 | 734,736 | ▲146,955 | 実習費収入 |
| 医業外費用 | 1,706,405 | 1,235,215 | ▲471,190 | 退職引当金の減少 |
| 経常利益 | 18,333,738 | 19,527,567 | 1,193,829 | |

5. 森ノ宮医療学園出版部

(1)概況報告

平成 27 年の売上実績は、24,463,662 円（予算 27,662,000 円 達成率 88.40%）という結果である。

具体的な事業活動としては、基幹である雑誌『鍼灸 OSAKA』4 号発行に尽力するとともに、企画遂行に向け尽力したが、結果として、新規単行本については、執筆者サイドの事情等から発行に至らず、おおむね次年度への継続案件となった。一方、既刊本の改版等 3 点（『治療家の経営術』・『柔道整復理論サブノート改定第 4 版』・『ポケット鍼灸臨床ガイド』改定第 3 版）を発行した。

売上の達成率は、上記予想された新刊本の未発行による売上減と、引続く書物離れの影響からの書籍全般の売上微減の累積によるものと推測される。

販売促進への取り組みとしては、定期購読中止者への DM による〈『鍼灸 OSAKA』バックナンバー割引セール〉および他校へ定期購読キャンペーンを実施した。結果は、下記に記したが、バックナンバーへの需要を実感する結果となり、今後も年 2 回程度、同キャンペーンを実施したい。また、校友会勉強会や学園関係者主催の勉強会（セミナー）での出展販売においても良好な手応えがあり、可能な限り継続する予定である。

出版部事業として、東洋医学等の発展に資するための企画として、イベントの実施を挙げているが、27 年度は紀伊国屋書店本町店にて「お灸は世界を変える」と題する「モクサアフリカ」の活動報告と PR を行い、業界のみならず一般の方へも直接灸の効果をアピールした。

平成 28 年度については、継続企画の実現を第一に、『鍼灸 OSAKA』の新たな展開を必須項目として取り組むとともに、森ノ宮医療学園出版部ならではの企画を提案していく所存である。

なお、検討事項の「森ノ宮医療大学出版会」商標登録については、状況を鑑み、結論を出す予定である。

(2)制作・出版物報告

1) 「鍼灸 OSAKA」の発行 〈117～120 号 各 1800 部 発行〉

| No | 発行日 | 特 集 |
|---------|---------------|--------------------|
| 第 117 号 | 2015/5/20 発行 | 刺絡 2 次世代へ向けて一 |
| 第 118 号 | 2015/9/11 発行 | 社会鍼灸学と鍼灸社会学 |
| 第 119 号 | 2015/12/11 発行 | 新たな国民病、慢性腎臓病への鍼灸治療 |
| 第 120 号 | 2015/03/12 発行 | WFWS がやってくる |

2) 27 年度発行の単行本等編集・制作

- * 『治療家の経営術』（山下健著 復刻版）
- * 『柔道整復理論サブノート 改定第 4 版』（責任編集伊黒浩二）
- * 『ポケット鍼灸臨床ガイド』改定第 3 版 1 刷（監修坂本歩）
- * 「校友会報」（年 1 回 No. 15）・グリーティングカード 1 点・DVD 1 点（編集中）

3) 28 年度継続制作予定の出版物

- * 『中国針灸学術史大綱』（黄龍祥著 日本語訳）：第 1 部翻訳校閲進行中
- * 『はりきゅう Q&A』（森ノ宮医療学園出版部編）
- * 『経絡経穴取穴 Study』：編集制作中
- * 『モクサフリカ 小さなお灸で世界を変える』：進行中

(3)平成 27 年度事業計画進捗状況

| | 27 年度計画制作物・事業 | 実績・進捗状況 | |
|------|-----------------|-----------------|----|
| 季刊誌 | 鍼灸 OSAKA117 | 発刊 | 了 |
| 季刊誌 | 鍼灸 OSAKA118 | 発刊 | 了 |
| 季刊誌 | 鍼灸 OSAKA119 | 発刊 | 了 |
| 季刊誌 | 鍼灸 OSAKA120 | 発刊 | 了 |
| 書籍販売 | 教科書・参考書販売 | 予定通り完了 | 了 |
| 書籍販売 | 図書室図書販売 | 完了 | 了 |
| 単行本 | 中国針灸学術史大綱第 1 巻 | 28 年度に校了予定 | 継続 |
| 単行本 | はりきゅう Q&A | 28 年度に出版予定 | 継続 |
| 単行本 | 経絡経穴取穴 Study | 28 年度に出版予定 | 継続 |
| デジタル | 鍼灸 OSAKA 絶版号 | 28 年度発売予定 | 継続 |
| デジタル | 鍼灸臨床ポケットガイド アプリ | 28 年度出版予定 | 継続 |
| 制作受託 | 校友会報 | 制作済み | 了 |
| | DVD (下條喜信先生) | 28 年度発行予定 (編集中) | 継続 |

(4)売上報告

● 27 年度月別売上(単位:円)

| 月 | 売上額 (円) | 24, 463, 662 | | | |
|-----|-------------|--------------|-------------|------|-------------|
| 4 月 | 2, 247, 149 | 8 月 | 1, 792, 058 | 12 月 | 3, 217, 004 |
| 5 月 | 2, 883, 605 | 9 月 | 2, 944, 291 | 1 月 | 83, 8011 |
| 6 月 | 1, 870, 397 | 10 月 | 1, 569, 860 | 2 月 | 630, 181 |
| 7 月 | 2, 276, 234 | 11 月 | 854, 718 | 3 月 | 3, 340, 154 |

● DM によるキャンペーン

『鍼灸 OSAKA』定期購読休眠者 (かつて購読していた方) へのバックナンバー割引価格販売キャンペーンを期間限定 (約 1 カ月間) で行った。また同時に、東洋医学系学科および看護学部を有する学校 72 校 (専門学校・大学) へ『鍼灸 OSAKA』定期購読案内を送付した。

* 学校関連は、直接購読申込みではなく、書店を通じての購入がほとんどであるため、DM との因果関係は不明であるが、結果的には購読校は増加している。

● 店訪問・営業

学会出展時に開催地を中心として、時間的余裕に応じてその近郊書店を訪問し、出版部発行書籍の PR を行っている。また、新刊発行予定についても、取次書店担当者はもちろん、各小売書店の医学書担当者と対面して事前 PR することで、発行時に委託等注文がスムーズ得られる。

〔取扱書店一覧〕

WEB 書店 Amazon
 Fujisan (鍼灸 OSAKA のみ)
 紀伊国屋 BookWEB セブンネットショッピング ヨドバシカメラ
 メテオメディカルブックセンター YAHOO! ブックス など

店舗

| | | | |
|------|--|------|---|
| 北海道 | MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店 蔦屋書店函館店 丸善札幌南一条店 ジュンク堂書店旭川店 | 岐阜県 | 喜久屋書店・大垣店 |
| 岩手県 | MORIOKATUTAYA | 三重県 | ワニコ書店 |
| 宮城県 | アイエ医書センター 丸善・仙台アエル店 | 京都府 | 紀伊國屋書店・京都御池店 ジュンク堂書店・京都店 ジュンク堂書店・京都 BAL 店 アバンティブックセンター |
| 福島県 | 八重洲ブックセンター・郡山店 | 大阪府 | 紀伊國屋書店・梅田本店 紀伊國屋書店・本町店 ジュンク堂書店・大阪本店 ジュンク堂書店・難波店 |
| 栃木県 | 大学書房メビウス | | 関西医書 |
| 群馬県 | 喜久屋書店・太田店 | | 丸善・なんば OCAT 店 |
| 千葉県 | 三省堂書店・そごう千葉店 丸善・津田沼店 宮脇書店・印西牧の原店 | | 神陵文庫・大阪支店 田村書店・千里中央店 |
| 東京都 | 三省堂書店・神保町本店 文進堂 東方書店 亜東書店 いざわ書林 燎原書店 新樹社書林 丸善・本店 八重洲ブックセンター・本店 | 兵庫県 | 神陵文庫・本社 ジュンク堂書店・三宮店 ジュンク堂書店・三宮駅前店 ジュンク堂書店・姫路駅前店 |
| | 旭屋書店・池袋店 | 島根県 | 島根井上書店 |
| | 紀伊國屋書店・本店 紀伊國屋書店・新宿南口店 ジュンク堂書店・池袋店 たにぐち書店 オリオン書房・ノルテ店 | 岡山県 | 泰山堂書店 泰山堂書店・鹿田店 丸善・シンフォニービル店 喜久屋書店・倉敷店 |
| 神奈川県 | 有隣堂・医学書センター 有隣堂・川崎 BE 店 あおい書店横浜店 ACADEMIA・港北店 ACADEMIA・ちはら台店 | 広島県 | 井上書店 井上広文館 フタバ図書・TERA 医書 |
| 長野県 | 明倫堂書店 | 徳島県 | 久米書店 久米書店・医大前店 |
| 新潟県 | 考古堂書店 | 香川県 | 宮脇書店・本店 宮脇書店カルチャースペース 宮脇書店・南本店 |
| 富山県 | 文苑堂書店・福田本店 | 愛媛県 | 丸三書店 |
| 石川県 | 前田書店 | 福岡県 | 丸善・福岡ビル店 紀伊國屋書店・福岡本店 紀伊國屋書店・福岡天神店 ジュンク堂書店・福岡店 喜久屋書店・小倉店 |
| 静岡県 | 丸善・新静岡店 ガリバー | 長崎県 | 紀伊國屋書店・長崎店 |
| 愛知県 | 大竹書店 丸善・名古屋栄店 三省堂書店・高島屋店 | 大分県 | ジュンク堂書店・大分店 |
| | | 鹿児島県 | ジュンク堂書店・鹿児島店 |
| | | 沖縄県 | 考文堂 |
| | | 韓国 | 釜山 栄光図書 |

Ⅲ. 財務の概要

- ・ 旧学校法人会計基準ベースでは、帰属収入額が2,758百万円、帰属収支差額比率が10.0%で、平成26年度比でそれぞれ△61百万、△5.1%となった。専門学校の学納金収入の減少が主要因である。
- ・ 新学科関連の固定資産取得等により、翌年度繰越収入超過額が△1,044百万となる一方で正味資産は27百万円増加した。
- ・ 日本私立学校振興・共済事業団の基準に基づく経営状態判定結果は、引き続き最上位ランク（A1）を維持した。

表1：平成27年度決算概要

(単位：円)

| No. | | 平成27年度※ | 平成26年度 | 平成25年度 | 平成24年度 | 説明 |
|-----|------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------------|
| 1 | 帰属収入 | 2,758,027,401 | 2,818,708,306 | 2,842,770,824 | 2,735,524,015 | 消費収支(単年度)の収入合計 |
| 2 | 消費支出 | 2,481,058,394 | 2,394,096,562 | 2,254,081,168 | 2,280,737,125 | 消費収支(単年度)の支出合計 |
| 3 | 帰属収支差額 | 276,969,007 | 424,611,744 | 588,689,656 | 454,786,890 | 1-2 |
| 4 | 基本金組入 | △ 2,878,085,848 | △ 13,960,200 | △ 92,940,851 | △ 27,005,220 | 将来存続に向けての最低限の設備など備え |
| 5 | 差引収入超過 | △2,601,116,841 | 410,651,544 | 495,748,805 | 427,781,670 | 3+4(△支出超過額) |
| 6 | 前年度繰越収入超過額 | 1,556,923,456 | 1,142,597,102 | 616,848,297 | 183,778,597 | 差引収入超過額の累計額 |
| 7 | 基本金取崩 | - | 3,674,810 | 30,000,000 | 5,288,030 | |
| 8 | 翌年度繰越収入超過額 | △1,044,193,385 | 1,556,923,456 | 1,142,597,102 | 616,848,297 | 5+6+7 (△は支出超過額) |

※27年度の数値は事業活動収支計算書を旧・消費収支書の形式に置き換えたもの

※事業活動収支計算書(概要)

| No. | | 平成27年度 | 説明 |
|-----|------------|----------------|-------|
| 1 | 教育事業活動収入 | 2,739,177,618 | - |
| 2 | 教育事業活動支出 | 2,462,650,960 | - |
| 3 | 教育活動収支差額 | 276,526,658 | 1-2 |
| 4 | 教育活動外収入 | 2,113,923 | - |
| 5 | 教育活動外支出 | 0 | - |
| 6 | 経常収支差額 | 278,640,581 | 3+4-5 |
| 7 | 特別収支差額(集計) | △1,671,574 | - |
| 8 | 組入前当年度収支差額 | 276,969,007 | 6+7 |
| 9 | 基本金組入額 | △2,878,085,848 | - |
| 10 | 当年度収支差額 | △2,601,116,841 | 8+9 |
| 11 | 前年度繰越収入差額 | 1,556,923,456 | - |
| 12 | 翌年度繰越収支差額 | △1,044,193,385 | 10+11 |

表 2 : 正味資産の推移

(単位: 円)

| | 平成 27 年度 | 平成 26 年度 | 平成 25 年度 | 平成 24 年度 | 平成 23 年度 |
|------------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 正味資産 (総資産-負債) | 12,311,200,147 (内流動資産総額 320,448,034)、 | 12,034,231,140 | 11,609,419,426 | 11,020,929,740 | 10,566,142,850 |
| 資産増加額 | 276,969,007 | 424,811,714 | 588,489,686 | 454,786,890 | 581,029,356 |

表 3. 主な財務比率

| 項目 | 平成 27 年度 | 平成 26 年度 | 平成 25 年度 | 平成 24 年度 | 平成 23 年度 | 説明 |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------------|
| 帰属収支差額比率 | 10.0% | 15.1% | 20.7% | 16.6% | 22.0% | 帰属収入—消費支出 / 帰属収入 |
| 教育研究経費比率 | 23.7% | 24.6% | 23.3% | 22.0% | 26.7% | 教育経費 / 帰属収入 |
| 管理経費比率 | 13.0% | 9.5% | 8.5% | 8.3% | 9.3% | 管理経費 / 帰属収入 |
| 経常収支差額比率 | 10.2% | | | | | 経常収支差額 / 経常収入 |
| 教育研究経費比率 | 23.9% | | | | | 教育経費 / 経常収入 |
| 管理経費比率 | 13.1% | | | | | 管理経費 / 経常収入 |

(参考) 日本私立学校振興・共済事業団基準にもとづく経営状態判定結果

| 項目 | YES/NO | 備考 |
|-----------------------------|--------|------------------|
| 教育活動資金収支差額が、3年のうち2年以上赤字である。 | NO | |
| 外部負債を約定年数または10年以上に返済できない | NO | |
| 修正前受金保有率100%未満である | NO | 修正前受金保有率 364% |
| 経常収支差額が3年うち2年以上赤字である。 | NO | |
| 黒字幅が10%未満か? | NO | 経常収支比率10.2% |
| 積立率が100%未満か? | NO | 積立率120% |
| 判定結果 | A1 | 14段階中最上位ランク |

以上